A M C F

リファレンスハンドブック

英語版

2025 年 – 最終版

2025 年 10 月

意図的に空白のページ

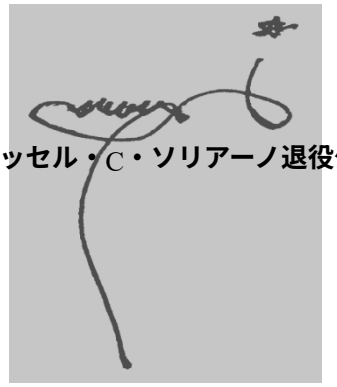
はじめに

軍人クリスチャンおよび軍人キリスト教団体（MCF）が、自国軍隊内および他国において福音を共有する実践は急速に広がっています。 軍人キリスト教徒協会（AMCF)、キリスト教会議・教育・奉仕協会（ACCTS)、国際軍人宣教団（MMI)、ミッション支援機構（MSO）の役員らは、この活動や AMCF 及び関連団体の起源・機能について繰り返し質問を受けてきた。1991 年、AMCF 役員と ACCTS スタッフは祈りと計画のための会合を開いた。 『AMCF リファレンスハンドブック』は、この「祈りと計画」の成果の一つである。

本ハンドブックは、AMCF 及び支援団体との協働を目指す方々に向け、関連情報を提供します。また、初めて MCF を立ち上げる方々や、各軍種で MCF を率いる指導者の方々にも有益な情報を提供します。本ハンドブックは指示的な性質のものではありません。その内容は、頻繁に寄せられる多くの質問への回答を提供し、あらゆる軍人クリスチャンや MCF に有用な情報を提供することを目的としています。

協会として、私たちは相互励まし、祈り、訓練、交わりのために、しばしば会議の場で集まり続けるべきです。効果的に神に仕えるためには、また祈りつつ奉仕活動を評価し、会議やその他の行事での決定事項実現に向けた進捗を定期的に共有すべきです。 AMCF の目標である「あらゆる国に MCF を」を達成するため、私たちは神に喜ばれる MCF リーダーを育成し続けなければなりません。彼らは会員にキリスト教の原則を日常生活に適用するよう促し、正しいこと、神に喜ばれることを行う信念の勇気を持たせる存在となるでしょう。最後に、これらの目標は祈りの共同体としてのみ達成できると確信しています。

世界中の制服を着た男女は、あらゆる国家において重要な役割を担っており、特に彼らの奉仕は、世代的な摂理の行軍命令として大宣教命令を用いるものである。神の贖いの計画の本質を捉え、AMCF リファレンスハンドブックを用いて神の足跡に従うことが必要である。これは、職場において聖霊に導かれ、高い勤勉さと等しい警戒心をもってぶどう畑を通る私たちの歩みを基準とするものである。 参照資料が容易にアクセス可能な場合、説明責任は高く評価される。偉大で力強い事柄は未だ展開されぬため、制服を着たクリスチャンは注意深く観察し、自覚せねばならない。「*神は、御心に適うことを行うために、あらゆる良いものであなたがたを十分に備え、イエス・キリストを通して、御目に喜ばれることをあなたがたのうちに働かせてくださいます。栄光が、永遠に、また永遠に、キリストにあるように。アーメン。*」（ヘブライ 13:21）



エッセル・C・ソリアーノ退役少将

出版履歴と著作権表示

1994 年 4 月：*ACCTS による初版発行*

2000 年 10 月：*電子版 AMCF ホームページ及びリファレンスマニュアルは www.amcf-int.org で閲覧可能。*

2001 年 9 月：*本文書を最新のものとするため、特定の記事を更新、削除、または差し替えました。* 2002 年 2 月：*新たな AMCF 役員、MMI、その他の文法・句読点の変更を含めるため、ハンドブックを更新し再発行しました。*

2004 年 8 月：*国際委員会により更新され再発行*

2015 年 8 月：*国際委員会によりハンドブックを更新・再編成。PSO および大統領ベンチによる審査を経て、英語版の最終公開日は 2015 年 12 月 31 日を予定。*

2018 年 11 月：*新たな AMCF 役員、PSO スタッフ、その他の軽微な修正を反映しハンドブックを更新*

2019 年 10 月：*新たな AMCF 役員および PSO スタッフ一覧を反映しハンドブックを更新*

2020 年 10 月：*AMCF 地域の任意クラスター化を反映し、PSO スタッフリストを更新するためハンドブックを改訂* 2021 年 10 月：*パンデミック期間中の教訓を反映し、倫理研修を追加するためハンドブックを改訂* 2022 年 10 月：*新 AMCF 会長および総 MCF 数を反映するためハンドブックを改訂*

2023 年 10 月：*新たな AMCF 地域区分、副会長、PSO 更新内容を反映しハンドブックを更新*

2024 年 10 月：*PSO 更新内容を反映しハンドブックを更新*

2025 年 10 月：*2024 年世界大会および PSO 変更を反映しハンドブックを更新*

© 2015 全著作権所有。軍事キリスト教フェローシップ協会（AMCF）は、本文書の内容の起草者および所有者として特定される権利を主張します。キリスト教会議・教育・奉仕協会（ACCTS）、ミリタリー・ミニストリー・インターナショナル（MMI）、ミッション支援組織（MSO）は、本ハンドブックの内容作成にあたり AMCF のハンドブック編集チーム（HET）として協力しました。 各セクションは、AMCF を原出版者として明記の上、複製可能です。本ハンドブックの翻訳は、AMCF HET による調整と承認を得た場合のみ許可されます。AMCF ハンドブックが本来の目的を果たし、AMCF にとって関連性を維持することを保証するため、PSO および地域副会長からの意見を取り入れる年次レビューサイクルが設定されており、必要な変更は毎年 10 月 1 日までに公表されます。

聖書の引用箇所は、特に断りのない限り、新国際版®（NIV®）によるものです。著作権 © 1973, 1978 Biblica, Inc. TM はゾンダーヴァンの許可を得て使用しています（全世界。www.zondervan.com）

キリスト教会議・教育・奉仕協会ミリタリー・ミニストリーズ・インターナショナル accts@accts.org www.accts.orgheadoffice@mmi.org.uk

www.mmi.org.uk

ミッション支援機構 mso.amcf@gmail.com

www.mso.or.kr

目次

はじめに.....i
出版履歴と著作権表示.....ii
目次.....iv
更新および改訂履歴.....vi
AMCF リファレンスハンドブックで使用される略語.....vii
第 1.....1
軍事キリスト教友愛会連合（AMCF）.....1
はじめに.....1
AMCF モットー.....1
AMCF の祈り.....1
AMCF の使命.....1
AMCF の目標.....2
AMCF の歴史のハイライト.....2
AMCF の組織構造.....7
関連 MCF 及び個人.....7
AMCF の運営方法.....8
支援と調整.....10
セクション 1-1.....13
AMCF 役員と地域.....13
会長.....13
地域別副会長.....13
セクション 1-2.....15
AMCF 役員の役割.....15
会長.....15
地域副会長（VP）.....15
意図的に空白のページ.....17
セクション 1-3.....18
祈りと計画.....18
セクション 1-4.....22
AMCF 概略図.....22
セクション 1-5.....23
AMCF 設立証明書.....23
第 2 章.....24
全国軍事キリスト教フェローシップ（MCFs）.....24
会議開催ガイドライン.....29
AMCF 授業計画.....37
はじめに.....37
帰納的聖書研究.....38
対話的祈り.....42
個人伝道.....46
聖書的倫理 – 正しいことと間違ったことを決める方法.....49

第 3 章.....54
主要支援組織（PSO） 54
MCFS に対する PSO の支援.....54
合同支援・訓練チーム（CATT） 56
CATT の計画、組織化、実施に関する原則 56
CATT の利点 56
キリスト教会議・教育・奉仕協会（ACCTS）.....57
ACCTS による MCF および AMCF 副会長向け研修・支援.....59
ACCTS 事務局..... 59
ミリタリー・ミニストリーズ・インターナショナル（MMI）.....60
MMI トレーニング／支援（MCF および AMCF 副会長向け）.....62
MMI スタッフ一覧とその責任範囲.....63
メール:fernando@mmi.org.uk..... 64
ミッション支援組織（MSO）.....65
研修・教育.....69
MSO オフィス：.....71
第 4 章..... 72
その他の支援組織（OSOs）.....72

更新および改訂履歴

注：セキュリティ上の理由から、PSO スタッフ職員については氏名、電話番号、国名、メールアドレスのみを提供します。

AMCF リファレンスハンドブックで使用される略語

本ハンドブックで使用される略語は、本文中で初めて使用される際に定義されます。一度しか使用されない略語は、略語一覧には含まれません。ただし、本ハンドブック内で複数回使用される略語については、AMCF リファレンスハンドブック利用者が容易に参照できるよう、一覧に掲載しています。

ACCTS .....キリスト教会議・教育・奉仕協会 – 3 つの PSO のうちの 1 つ
AE.....アフリカ東部 AMCF 地域
AF.....アフリカ、フランス語圏 AMCF 地域
AMCF.....軍事キリスト教友愛会連合
AS.....アフリカ、南部 AMCF 地域
ASE.....アジア、東南部 AMCF 地域アジア
ASIA S.....アジア、南 AMCF 地域
AW.....アフリカ、西 AMCF 地域
CA.....アメリカ、中米 AMCF 地域
CATT.....合同支援・訓練チーム
CP .....会話的祈り
ECA .....アジア、東中部 AMCF 地域
ENE.....ヨーロッパ、北東 AMCF 地域
ESC.....ヨーロッパ、南中部 AMCF 地域
FMF-K.....韓国における外国軍フェローシップ交流
FNOCU.....全国役員キリスト教連合会
GI-2014.....グローバル交流 2014
IBS.....帰納的聖書研究
MCF.....軍事キリスト教フェローシップ
ME.....中東 AMCF 地域
MEO .....軍事伝道観察
MMI.....ミリタリー・ミニストリーズ・インターナショナル – 3 つの PSO の一つ
MSO.....ミッション支援組織 – 3 つの PSO の一つ
NA .....北米 AMCF 地域
OCU.....クリスチャン・ユニオン
OSO .....その他の支援組織
P & P.....祈りと計画
PAC.....太平洋 AMCF 地域
PSO.....主要支援組織
RSO.....地域支援組織
SA.....南米 AMCF 地域副社長
VP .....副会長

注：略語が複数形であることを示すため、必要に応じて小文字の「s」を追加します。例えば、AMCF は単数形ですが、これに関連する MCF は複数存在します

第 1 章

軍事キリスト教友愛会連合（AMCF）

「キリスト・イエスにあって、私たちはみな一つです。」（ガラテヤ人への手紙 3:28）

はじめに

軍事キリスト教友愛会連合（AMCF）は、各国の軍事キリスト教友愛会（MCF）及び個々の軍人キリスト教徒が、それぞれの軍隊、国家、地域、そして世界においてキリストを尊ぶために自発的に協力する連合体である。MCF は独立し、自治権を持ち、財政的に自立している。各国の軍隊のニーズに応えるため、国家単位で発展する。AMCF は非政治的であり、いかなる個人、政党、国家の政治的野心や立場も支持しません。AMCF は教派に属さない性質を持ち、キリスト教信仰告白のあらゆる伝統との交流に開かれています。いかなる教派や教会とも公式な提携関係はありません。AMCF は中央組織

、事務所、予算、職員を持たない連合体です。

AMCF モットー

「キリスト・イエスにあって、私たちはみな一つです

。」（ガラテヤ 3:28）

このモットーは、当時「国家キリスト教連盟」と呼ばれた団体の第 1 回国際会議（1930 年）で採択された。

[1] 本手引書において「軍隊」および「武装 部隊」という語句が使用される場合、その意図は、国家の武装部隊、防衛部隊、および適切な場合には法秩序維持部隊の全部門を含むものである。一部の国では、消防機関およびその他の国家レベルの機関も含まれる場合がある。

将校キリスト教連合（FNOCU）。後に AMCF となる。

AMCF 祈祷文。1930 年大会で採択された AMCF 祈祷文は、1971 年に「女性も」および「聖霊の力によって」の文言を追加して改訂された。現在の文面は以下の通りである：

天の父よ、

イエス・キリストの御血がすべての

罪を洗い清めてくださることを感謝します

。

すべての国の軍人・軍属を祝福し、

『キリスト・イエスにあって一つである

』という喜びを知る私どもが

「キリスト・イエスにあって一つとなる」喜び

を知る私たちが、あなたの愛に満たされ、

聖霊の力によって他の人々に伝えら

れますように。主の来臨まで。

アーメン。

AMCF の使命。AMCF の使命は、世界のあらゆる国の軍

人たちにイエス・キリストの福音（良き知らせ）を伝えることです。

[2] 「クリスチャン」という名称が示す通り、AMCF および関連 MCF のメンバーは、主であり救い主であるキリスト・イエスに従う者たちである。

AMCF の目標。AMCF の目標は、世界中のあらゆる国

に成熟し効果的な MCF が存在することです。成熟し効果的な MCF には以下の特徴が含まれ、かつ以下の性質を持つべきです：

a. 自国発祥であること - すなわち、他国からではなく、その国に根ざしたものであること

b. 自律的である

c. ピリピ 3:12 の意味における霊的成熟へと成長している：「... *キリスト・イエスが私を捕らえてくださったそのものを、私も捕らえようと追い求めている」*

d. 自立的 - すなわち、宣教支援において PSO（宣教支援団体）に依存しない

e. AMCF の旗印のもと、他の地域および世界的な MCF と交わりを持つ

f. 成熟した軍人クリスチャン指導者及び会員であり、主と軍を愛し、プロフェッショナルなクリスチャンとしての卓越した生活を通して福音を知らせたいと願う者

したがって成熟した効果的な MCF とは、霊的成熟を志向し、自組織の軍人・軍属、近隣の MCF、地域副会長、AMCF への奉仕を追求する独立した団体である。

AMCF の歴史的ハイライト

1. 軍人キリスト教友愛会（AMCF）は、各国の軍隊に奉仕するクリスチャンの人生において、神が様々な時代と場所で働かれた結果として生まれたものです。AMCF の起源は 1851 年に遡ります。当時インドで勤務していたイギリス騎兵隊のトロッター大尉が、キリスト教徒の交わりと祈りの必要性を感じたのです。この必要性を共有したことが、後にイギリスで将校キリスト教友愛会（OCU）となる組織のビジョンへとつながりました。OCU は祈りの交わりとして始まりました。2005 年、OCU は軍人キリスト教友愛会（AFCU）と改称されました。AFCU の歴史は、後に英国で将校キリスト教連合（OCU）となる組織の構想へと発展しました。OCU は祈りの交わりとして始まりました。2005 年、OCU は軍隊キリスト教連合（AFCU）と改称されました。AFCU の歩みは https://www.afcu.org.uk/history/で確認でき、MCF の設立と成長を通じて主が栄光を受けるという、まさに「神の物語」です。
2. 他にも始まりはあった。
3. 1961 年、チリの海軍兵士が同様の交わりの必要性を感じ、今日の制服福音宣教団（MEU）の礎を築いた。MEU は AMCF と提携した時点で約 6,000 名の会員を擁していた。MEU は礼拝と証しの交わりとして始まった。
4. 1960 年代には、シンガポール陸軍に勤務する軍医が神の召しに応え、後に AMCF と提携する「軍隊軍事委員会」を設立しました。
5. 1980 年、ドミニカ共和国の神の僕の一人が「キリストのために働く軍隊の福音宣教奉仕団」を設立するよう導かれました。この組織は強力な伝道活動から始まりました。やがて彼らは AMCF の存在を知り、提携しました。

6. 1986年、スペインでAMCFの存在すら知らなかった一人の男性が神の導きにより「軍隊のための聖書研究所（IBFA）」を設立しました。この組織も後にAMCFと連携しました。これらはAMCFが人の働きではなく神の御業であることを示す例です。

7. これらの運動は祈り、交わり、証しから始まった。全能の神への祈り、キリスト者同士の交わり、そして

福音宣教は今日の AMCF **の特徴である。**

8. 国際的な軍人キリスト教徒の交わりは 1920 年代に始まった。スイスで開催された英国 OCU スキー大会に参加したオランダ人将校は帰国後、オランダ軍内に同様の組織を設立することを決意した。 そのスキーパーティーのリーダーであったアーサー・スミス少佐（後に中将サー）は、1930 年に国際的な交わりを確立する原動力となりました。それは「各国将校キリスト教連合会（FNOCU)」と呼ばれました。彼は友人のオランダのフォン・トゥイル男爵を初代会長に就任させるよう説得しました。

9. 当時 AMCF と呼ばれた FNOCU 創設者たちの目的は、特定の宗派や教会に属さず、中央組織・予算・職員（会長を除く）を持たない非政治的な交わりを築くことだった。会長は自宅を拠点に活動する。加盟する各国の将校キリスト教連合（OCU）は自治・財政的自立を保ち、各国の特色に沿って発展することが奨励された。

10. 最初の重要な進展は、1930 年にフォン・タイル家の邸宅ズイレン城で開催された小規模な国際 FNOCU 会議であった。ドイツ、オランダ、スウェーデン、イギリスの 4 カ国が参加した。この会議に出席した若い英国軍将校は、第一次世界大戦の激しい塹壕戦で敵対していた将校たち同士のキリスト教的愛と交わりに、いかに深く感動したかを回想している。この会議において国際フェローシップのモットーと国際祈祷文が採択された。会員は毎週日曜日にこの祈祷文を用いることに合意した（1 ページ参照)。

11. 第 2 回 FNOCU 国際会議は 1937 年 7 月、オランダのズイレン城で開催された。8 つの MCF から約 60 名の代表者が出席した。

12. この交わりは様々な形で他の国々や大陸へと広がっていった。スコットランドのエディンバラでは、二十年以上にわたり、忠実な英国 OCU 祈祷会メンバーが米国における OCU 誕生を祈るために集まった。米国将校キリスト教友愛会（OCF）は、彼らの祈りに応える形で誕生した。

13. 朝鮮戦争中、米国で軍事課程を受講していた韓国人将校が米国 OCU と出会った。彼は素晴らしいもてなしとキリスト教徒の交わりを体験した。帰国後、神の助けを得て他の韓国人キリスト教将校と共に大韓民国将校キリスト教連合（ROK OCU）を結成することを決意した。この取り組みには、韓国駐留の米国 OCF メンバーが協力した。韓国 OCU は、現在アジアで繁栄している多くの（MCF）の最初の組織となった。

14. アフリカ初の OCU は西アフリカのガーナで結成された。当時のゴールド・コースト（現ガーナ）に勤務していた二人の英国人 OCU 若手会員の生き様が始まりであった。彼らのキリストへの熱意と献身が、アクラ軍事アカデミーのガーナ人士官候補生グループを奮い立たせ、ガーナ OCU 結成へと導いた。

15. こうして運動はアフリカ、アジア、ヨーロッパ、北米の四大陸に広がった。

16. **フォン・トゥイル男爵の逝去後、英国陸軍のロバー**

ト・ユーバンク少将が第 2 代会長に招請された。彼は 1965 年から 1976 年までその職を務めた。 将軍と夫人ジョイスは、アメリカ、カナダ、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、オランダ、西ドイツ、ガーナ、ケニア、オーストラリア、日本、韓国、南ベトナム、シンガポール、インドなど、既存または設立予定の OCU を数多く訪問した。フェローシップの数は着実に増加していた。

17. 1961 年、FNOCU 国際会議が世界的な活動拡大の主要な手段となった。初期の FNOCU 国際会議は以下の通り。いずれも規模が大きく確立された OCU が主催・開催した。

18. 1961 年 - ベルヒテスガーデン（西ドイツ）。米国 OCF 主催。北米、アフリカ、アジア、ヨーロッパからの代表団が参加。ガーナ、大韓民国、フィンランドが初めて参加。

19. 1964 年 - オランダ、ルンテレン。
オランダ NCOK 主催。

20. 1967 年 - 韓国・ソウル。韓国 OCU 主催。北米、欧州、アジアからの代表団が参加。アジアからは初めて 4 カ国が参加：インドネシア、日本、南ベトナム。

21. 1968 年 - イギリス・スワンウィック。英国 OCU 主催。北米、アフリカ、アジア、欧州からの代表団が参加。カナダ、インド、ケニア、スウェーデンが初参加。ケニア OCU の礎が築かれる

。

22. 1971 年 - 西ドイツ、ダーゼル。ドイツ正教会青年会（コーネリウス協会：COV）主催。

23. 1976 年 - アメリカ合衆国バージニア州マサネッタ・スプリングス。米国 OCF 主催。史上初めて全 6 大陸から代表団が参加。21 カ国から 600 名以上が参加した画期的な会議。オーストラリア、ブラジル、ジャマイカ、ニュージーランド、中華民国（台湾）がが初参加。本会議で世界は 4 地域に分割され、各地域に副会長が任命された。ユーバンク少将は会長職を米陸軍のクレイ・T・バッキンガム少将に引き継いだ。

24. 1980 年 – イギリス・スワンウィック。英国 OCU 主催。39 カ国が参加し、1976 年のほぼ倍となった。本会議では二つの歴史的決定がなされた。第一に FNOCU を AMCF へ改称すること。第二に地域会議の開催を開始すること。

25. その後、新たな MCF が各国単位で発展した。特に小規模な団体では、オランダ、オーストラリア、日本、ケニア、シンガポール、カナダなど「全階級」を基盤とした組織が設立された。

26. チリの MCF は、AMCF と提携した時点で既に 6,000 人以上の会員を擁しており、その構成員はほぼ全員が下士官兵であった。こうした多様な発展は、フェローシップ内部や国際会議において何ら問題を引き起こさなかった。 しかし、こうした差異に対応するため新たな名称が必要となった。そこで 1980 年のスワンウィック会議において、国家将校キリスト教連合会（FNOCU）は軍事キリスト教フェローシップ協会（AMCF）へと改称された。これが歴史的決定の第一歩であった。

27. **第二の歴史的決定は、**AMCF **地域会議の概念導入で**

あった。以来、地域および準地域会議が世界各地で開催され、通常は地域の必要に応じて 2〜4 年ごとに実施されている。場合によっては複数の AMCF 地域が合同で会議を開催することもある。

28. 1984 年以降、AMCF は地域会議に加え世界会議の開催を開始した。

29. 世界会議の開催には複雑さと費用がかかるため、通常 10 年ごとに開催される。1984 年以降の開催地は以下の通り：

30. **1984 年 – 韓国・ソウル：韓国 MCF 主催、54 カ国から 500 名以上が参加。**

31. **1994 年 – アメリカ合衆国バージニア州バージニアビーチ：米国 OCF 主催。参加国数は 94 カ国に増加し、代表者数は 1,047 名。**

32. **2004 年 – 韓国・ソウル：韓国 MCF と新設のミッション支援機構（MSO）が主催。134 カ国から 3,200 名の代表が参加。ソウル近郊のオサンリ祈祷山で開催。**

33. **2014 年 – 南アフリカ共和国ケープタウン：南アフリカ MCF と新設のジョシュア・トラストが主催。第 4 回世界会議の名称は「AMCF グローバル・インタラクション 2014」（GI-2014）に変更。約 100 カ国から 500 名以上が参加。**

34. **2024 年 – ブラジル・サンパウロ：ブラジル MCF 主催の 2024 年世界大会には、73 カ国から約 1,000 名の代表者が参加しました。参加者は、軍事宣教のための新たなアイデアとリソースを得て、活力を取り戻して帰国したと報告している。**

35. 1994 年、欧州ではワルシャワ条約機構の崩壊を受け、AMCF が「ユーロセミナー」と呼ばれる新たな形式の会議を開発しました。この会議は、旧共産圏諸国が軍務に対する新たな倫理的視点として表明した必要性に対応するものでした。

36. 紙幅の都合上、数多くの地域・国家会議や、AMCF 関係者の国境を越えた無数の訪問、そしてこの世界的な交わりが積極的に促進し育んできた豊かなもてなし、交わり、キリスト教的愛について詳述することはできません。年齢、階級、性別、人種を問わず、国際的な障壁を越えて多くの生涯にわたる友情が築かれました。

37. これ以上に重要なのは、軍隊に属するキリスト教徒が史上初めて、世界各国の軍務に就く人々に福音を伝えるという集中的な協力活動へのビジョンを共有し、参加したことである。 主の最後の祈りは、すべての弟子たちが「一つとなる」ことであり、最後の命令は「全世界に出て行き、福音を宣べ伝えよ」というものでした。AMCF に関わる者たちは「キリスト・イエスにあってすべてが一つとなる」ことを目指し、大宣教命令の成就に取り組んでいます。

38. クレイ・バッキンガム少将は、AMCF 会長としての 15 年間の任期を終えるわずか数ヶ月前、1991 年第一四半期号の AMCF ニュースレターに掲載された書簡の中で、AMCF に対する自身の理解を明確に表明しました。彼はこう記しています：

軍事キリスト教友愛会の使命は、世界中のあらゆ

る国の軍人たちにイエス・キリストの福音を伝えることです。私たちのメッセージは非常に単純です。それはイエス・キリストそのものであり、そのお方であること、その方が成し遂げられたこと、その方が教えられたこと、そしてその方が私たちに求めておられることです。私たちの使命は、偉大な組織や宗教体系を確立することでも、特定の教会や礼拝様式を支援することでも、政治的・経済的権力を獲得することでもありません。

むしろ私たちの使命は、イエス・キリストについて人々に伝えることです。それは、一人ひとりが永遠の命の希望を得られるように、一人ひとりが罪の責めと罰から解放されるように、一人ひとりが神と共に歩むという計り知れない特権を得られるようにするためです。 神は、いかなる国家や宗派、人種、服装様式、文化、宗教的信条や神学校、言語、経済システム、政治体制、礼拝形式の捕虜でも僕でもありません。

神は軍事力や階級、経済的富や社会的地位、教会の地位や教育水準、壮麗な建物や美しい大聖堂、雄弁な公の祈り、大規模な会議、長い巡礼に感銘を受けることはありません。神が望まれるのは、心温かく神に応答する男女であり、その人生がすべての人間の命の価値と尊厳に対する神の敬意を生き証しとする者たちなのです。」

39. バッキンガム将軍は 1976 年から 1991 年まで 15 年間、AMCF 会長を務めました。この間、彼と妻クララは前任者たちの模範に従い、世界中を旅して軍人クリスチャンと MCF を励ました。

40. 1991 年 9 月、バッキンガム将軍は AMCF 会長職を英国陸軍のローレンス・ニュー少将（サー）に引き継ぎました。ニュー少将の 11 年間の任期中、主は AMCF ファミリーに祝福を与え続けられました。この期間はインターネット導入による前例のない通信手段の発展期であり、AMCF ウェブサイトが開設され、運営方法・歴史・教材・デボーションなどが掲載されるなど、この技術が有効に活用されました。電子メールは AMCF 地域副会長との連絡を大幅に促進し、その数は 1991 年の 7 名から 2000 年には 14 名に増加した

。

2000 年には 14 名に増員されました。

41. ローレンス卿とニュー夫人は各地域を巡りながら、「祈りと計画」（18 ページ参照）の重要性を改めて強調し、すべての計画は期待に満ちた祈りと主の導きの下で立てられるべきだと訴えました。ロシアや旧ワルシャワ条約機構加盟国における MCF の設立は、この点で特に大きな成果をもたらしました。

42. ローレンス・ニュー少将は『AMCF 図説歴史回顧録 1838-2002 年』（全 6 巻）を刊行した。本出版物は ACCTS、MMI、MSO へ請求により CD-ROM 形式で入手可能である。

43. リー・ピル・スプ将軍は 2002 年 9 月より AMCF 会長に就任しました。その後 2004 年の AMCF 世界大会までに、リー将軍夫妻は全 14 の AMCF 地域及び全地域副会長を訪問しました。

44. **リー将軍は** 2002 **年** 9 **月から** 2012 **年** 9 **月までの** 10 **年**

間、

AMCF 会長を務めました。リー将軍の AMCF 会長在任期間中、70 の新規 MCF が設立されました。2012 年 9 月までに登録された MCF の総数は 148 に上ります。 一方、ローレンス・ニュー少将による『AMCF 図説歴史回顧録』第 1 部〜第 6 部に続き、リー将軍は自身の会長在任中の主要な MCF イベントをまとめた『AMCF 図説歴史回顧録』第 7 部を発刊・配布した。第 7 部は MSO（www.mso.or.kr）および AMCF ウェブサイト（www.amcf-int.org）に掲載された。

45. スリランカのスリラル・ウィーラソーリヤ将軍が 2012 年 9 月に AMCF 会長に任命された。

46. エッセル・ソリアーノ少将は 2022 年 10 月に AMCF 会長に任命された。

47. AMCF 会長団（会長及び 14 名の副会長）は、GI 2014 終了後 2 日間にわたり会合を開き、終了したばかりのグローバル・インタラクションの結果を検討するとともに、今後 5 年間の AMCF に対する主の計画を見極めました。

48. 大統領会議で決定された事項の一つとして、AMCF は 1930 年に創設者たちが構想した通り、独立した MCF（キリスト教青年会）の連合体であり続けるべきであることが合意されました。創設者たちに与えられた、当初の 4 カ国を対象とした主のビジョンは、2021 年に 157 カ国へと成長した AMCF にとって今もなおビジョンであり続けています。

AMCF の組織構造

49. AMCF は「会長団」によって運営され、会長と 14 名の地域副会長で構成される。地域は概念的に協力的な奉仕活動のために必要に応じて 4 つのクラスターに概念的にグループ化されている。（13 ページ及び 15 ページ）副会長はボランティアであり、PSO（大統領補佐官）やその他の軍事奉仕団体である MCF によって支援されている。AMCF 役員とその地域の一覧は「AMCF 役員と地域」（13 ページ）に記載されており、AMCF 役員の役割は「AMCF 役員の役割」（17 ページ）に記載されている。

50. AMCF 役員（会長団）は、各国の MCF の内部運営に対して権限を持たない。彼らを指揮したり代表したりすることもない。MCF は神から直接指示を受ける。AMCF 役員は国際活動を調整し、協会および関連する MCF や個人のニーズに基づき、励まし、助言、支援を提供する。

51. AMCF 会長は、大統領ベンチ他のメンバー及び主要支援組織の指導者らと協議の上、AMCF 副会長を任命し、自身の後任を選出する。会長の任期は通常 10 年、地域副会長は 7 年である。AMCF の地域区分数は固定されておらず、時間の経過と共に変更される可能性がある。

関連 MCF 及び個人

52. AMCF は正式な組織ではなく、MCF が存在しない

国々の MCF 及び個人の軍人クリスチャン（「コンタクト」）間で結ばれた非公式な連携協定である。軍人クリスチャン・フェローシップは、同一国籍の軍人クリスチャン 2 名以上が交わり、祈り、聖書研究、証しのために集まることで始まる。グループは名称を定め指導者を選出することで MCF として認められる。MCF はその必要性と状況に応じて組織化・運営される。詳細は第 2 章 25 ページ「国家軍事キリスト教フェローシップ（MCF）」で論じる。

53. いずれの MCF または連絡担当者も、AMCF 役員もしくは主要支援組織のスタッフに対し、いかなる手段でも非公式にその意思を示すことで、AMCF への加盟を申請できる。申請は AMCF 地域副会長に伝達され、同副会長が回答を行う。 提携証明書を希望する MCF には発行が可能です。証明書見本は 23 ページ図 1.1 に示されており、取得手順も同ページに記載されています。

54. AMCF と提携する団体は、あらゆる国の軍人・軍属が個人的・職業的生活においてイエスの教えを実践するよう奨励することを目的として、相互に協力することが推奨されます。提携団体は、オンライン版 AMCF ニュースレターを発行する ACCTS に対し、正確な住所を常に通知するとともに、祈りの要請や活動情報を送付し、他の提携団体と共有することが推奨されます。その見返りとして、提携団体は AMCF の活動について情報を得るとともに、参加を奨励されます。

AMCF の活動方法

55. AMCF の活動は、軍人・軍属が神の愛に満たされ、あらゆる国の軍コミュニティにおいてその愛を他者に伝えるという使命を支えます。各国の MCF 及び個人は、互いに励まし合い、大宣教命令（マタイ 28:19）を実行するよう努めています。

祈りによって

56. 目標達成には祈りが不可欠です。これは神の僕たちを通してなされる神の御業であり、人間が神のために行うものではありません。多くの MCF が祈りのリマインダーを発行し、通常は他国と共有します。

AMCF は全ての軍関係者に、毎日正午に祈ること（または定期的な祈りの時間を設定すること）、絶えず祈ること、そして神が心に必要を置かれるままに祈ることを奨励しています。

57. 世界的な AMCF「祈りの日」が毎年開催される。多くの国内 MCF はこの日に賛美、とりなし、断食の特別プログラムを実施する。さらに、地域および国内の祈りの日は、MCF や地域 AMCF 副会長によっても組織されることがある。

58. 「祈りと計画」のプロセスは、AMCF、MCF、コンタクト、および主要支援組織による奉仕活動の基盤として推奨されています。19 ページで説明されているこのプロセスは、奉仕活動に関わる者たちが、個人やグループの考えではなく、神が望まれることに集中し続けることを可能にします。

働きかけによって

59. AMCF **役員、主要支援組織のスタッフらは広範な活動を展開し、軍人に対しキリストに従うことの正当性と実効性を提示します。適切な場合には自国での軍人キリスト教フェローシップ設立を支援し、**

AMCF **会議やその他の軍人向け奉仕活動への参加を**

奨励します。宣教活動への参加を奨励します。海外訪問時には、現地の軍関係者を祈り・聖書研究・交わりのために招き、訪問軍人への歓待も行います。MCF には国境を越えた働きかけを通じ、近隣諸国を励ますことが奨励されています。

集いを通じて

60. AMCF のために、副会長や各国の MCF が定期的に世界規模・クラスター・地域・サブ地域会議を開催することがあります。これらの会議は、軍人クリスチャンが

他国の軍隊内で神がなさっている御業を認識する助けとなります。これらは国家の境界を越えた視野を広げます。

個人が孤立した努力ではなく、神が軍事世界において大規模に行っておられる御業の一部であることを認識する助けとなります。

参加者は互いに励まし合い、学び合います。貴重な人脈を築き、強い友情を形成します。

61. 各 AMCF 会議において、参加者は通常、次回会議の日時と開催地を決定します。国内 MCF が会議の開催を希望する場合、通常は AMCF 会長または該当する副会長を通じて招待状を送付します。AMCF 会議は、AMCF の使命、目標、理念を推進するために開催されます。会議主催者は、あらゆる面でイエス・キリストを称えるプログラムを企画することが求められます。会議に関する詳細は第 2 章 29 ページを参照してください。

62. AMCF 会議に加え、各国のフェローシップのメンバーは定期的に全国会議を開催しまた小規模な地域グループでも頻繁に集まり、祈り、聖書研究、交わりを行っています。

コミュニケーションを通じて

63. MCF は、国内 MCF および国際レベルでの活動状況を共有するため、ニュースレターやその他の文書を発行することが推奨されています。

64. PSO も AMCF ニュースを含む定期的なニュースレターを発行します。これらはまた、世界中の神の働きのための祈りを促し、それらの働きを支援する自らの奉仕活動について他者に知らせるために共有されることもあります。

65. 個人間の連絡は、手紙のやり取りや訪問によって維持されます。

66. 主要支援団体はウェブサイトを運営し、本ハンドブックやニュースレター、教育・励ましに役立つ豊富な情報を提供しています。電子メールは距離や政治的・宗教的障壁に関係なく、効果的かつ迅速なコミュニケーション手段です。 Facebook®などのソーシャルネットワークも、神の働きに関するニュースを共有する多くの便利な手段を提供しています。インターネットの費用と速度が許す場合、ビデオ会議は低コストまたは無料で個人用コンピュータを接続し、

会議を実施し、関係を維持することができます。すべての電子通信のオープンな性質は、セキュリティへの配慮を必要とします。ウェブアドレスと電子連絡先情報は、http://www.amcf-int.org/で確認でき、一部の MCF ウェブサイトへのリンクも掲載されています。

教えと励ましによって

67. AMCF **および** MCF **の会議、活動、訪問、出版物は、**

聖書の真理を教えるために用いられ、私たち全員が、自分の生活の中で神の御性質を現すよう励まし合い、軍隊への働きかけにおいて互いに励まし合うために活用されています。

協力によって

68. MCF は、主要支援団体、および同様の目的を持つ他のキリスト教団体や組織と協力しています。これらの他の団体や組織の多くは、第 4 章 69-72 ページに記載されています。一部の地域や国では、関心のある団体が、キリスト教軍事宣教団体（Fellowship of Christian Military Ministries）として非公式に集まり、その活動を理解し、自主的に調整して、その効果を高めています。

支援と調整

主要支援組織（PSO）

69. キリスト教会議・教育・奉仕協会（ACCTS）、国際軍事宣教（MMI）、ミッション支援機構（MSO）は、いずれも AMCF を支援する上で重要な役割を果たしています。これらの組織は、MCF やその他の団体との連絡を維持し、ニュースレターや祈りの課題を発行し、AMCF 会議の支援、必要な場合の資金管理、そして世界中のキリスト教徒の軍人たちに連絡を取り、励ますためにスタッフを派遣しています。 これらの組織とその機能については第 3 章で説明しています。図 1.1（22 ページ）の図式は、MCF、大統領ベンチ、PSO 間の関係を示しています。

地域支援組織（RSO）

70. AMCF が成熟し、PSO の活動の価値が認識されるにつれ、地域支援組織（RSO）の導入を通じて MCF 支援の働きを地域化する要望が高まっています。

RSO の働きは PSO と類似しますが、AMCF の地域境界内でのみ活動します。 最初に設立されたのは、西アフリカでの活動のためにナイジェリアに設置されたキリスト教軍人会支援イニシアチブ（CSI）である。

その他の支援組織

71. AMCF は、他のキリスト教団体や組織の協力と支援に深く感謝いたします。それらの多くは第 4 章（69-72 ページ）に記載されています。

五カ年評議会

72. 主要支援団体の会長およびスタッフは、可能な限り配偶者を伴い、5 年ごとに会合を開きます。参加者は AMCF の現状を検証し、今後 5 年間の計画を策定します。経済性と効率性の観点から、通常は世界大会と併せて開催されます。

結語

73. 1930 年の設立以来、神は AMCF に豊かな祝福を与えてこられました。現在では世界中に MCF や個人が存在し、自国の軍隊内で活発なキリスト教奉仕活動を展開し、近隣諸国にも奉仕を拡大しています。この一致は、救い主イエスへの共通の信仰と、他の人々にもこの信仰を分かち合ってもらいたいという願い

から生まれています。自らの軍隊内で活気あるキリスト教奉仕活動を維持し、しばしば近隣諸国にも奉仕しています。この一致は、救い主イエスへの共通の信仰と、他の人々にもその信仰を分かち合ってもらいたいという願いの結果です。

AMCF のモットーにある言葉通り、私たちは：

「キリスト・イエスにあって、すべては一つ」

意図的に空白のページ

セクション 1-1

AMCF 役員と地域

軍事キリスト教友愛協会

c /o ACCTS

私書箱 27239

デンバー、コロラド州 80227、**アメリ**

カ合衆国電話: +1 303-985-8808

ファックス: +1 303-986-4710

Email:accts@accts.org Website:

www.amcf-int.com **社長**

MG（**退役**）**エッセル・ソリアーノ**（**エブリン**）

E **メール**: (ACCTS **にお問い合わせください**) **地域別副**

社長

アフリカ東部（**AE**）

ブルンジ、コンゴ民主共和国、ジブチ、エリトリア、エ

チオピア、ケニア、ルワンダ、セイシェル、ソマリア、

南スーダン、タンザニア、ウガンダ

BG **デビッド・ワカアロ**（**ルース**）**メール：**

wakaalo@yahoo.com

アフリカ、フランス語圏（**AF**）**ベナン、ブルキナ**

ファソ、カメルーン、中央アフリカ共和国、チャド、コ

ンゴ、コートジボワール、ガボン、ギニア、マリ

、ニジェール、セネガル、トーゴ

BG **チャールズ・セザン**（**アルセリン**） Email:

sezancharles2@gmail.com アフリカ南部（AS）アンゴラ、ボツワナ、コモロ、レソト、マダガスカル、マラウイ、モーリシャス、

モザンビーク、ナミビア、サントメ・プリンシペ、南アフリカ、スワジランド、ザンビア、ジンバブエ

MG ニリニアナ・ラマシテラ（ドロテア）メール：

niramasy1209@yahoo.com アフリカ、西

（AW）

カーボベルデ諸島、赤道ギニア、ガンビア、ガーナ、ギニアビサウ、リベリア、ナイジェリア、シエラレオネ

マイク・アクパツ将軍（アイビー） E メール： akpatsu@yahoo.com

アメリカ、北部（NA）

アンティグア・バーブーダ、バハマ、バルバドス、ベリーズ、カナダ、ドミニカ、グレナダ、ガイアナ、ハイチ、ジャマイカ、セントルシア、セントクリストファー・ネイビス、セントビンセント・グレナディーン諸島、スリナム、トリニダード・トバゴ、アメリカ合衆国

退役海軍中佐 ウィルバート・カートン（グロリア）メールアドレス： wilbertkirton@gmail.com

アメリカ、中部（カリフォルニア州）

コスタリカ、キューバ、ドミニカ共和国、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、メキシコ、ニカラグア、パナマ、

ホセ・ロドリゲス大佐（カルメン）メール：

josemenciaro@yahoo.com

アメリカ、南（SA）

アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、エクアドル、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ、ベネズエラ

フアン・カブラル大佐（ロクサーナ）メール：

cabraljuanroxana@gmail.com

アジア、南部（AS）

アフガニスタン、バングラデシュ、ブータン、インド、モルディブ、ネパール、パキスタン、スリランカ退役大佐サリーム・マシュー（プリムローズ）メールアドレス： have.a.blessed.day@gmail.com

アジア、東南部（ASE）

ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、パラオ、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム（空席）

アジア、東中部（ECA）中国、日本、カザフスタン、キルギス、大韓民国、モンゴル、北朝鮮、台湾の中華民国、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン

退役大佐 チョン・ボンド（チャ・スンヘ）

Email: MSO54chung@gmail.com

ヨーロッパ北東部（ENE）アルメニア、アゼルバイジャン、ベラルーシ、ブルガリア、キプロス、デンマーク、エストニア、フィンランド、ジョージア、ギリシャ、アイスランド、ラトビア、リトアニア、マケドニア、ノルウェー、ポーランド、ロシア、スウェーデン、トルコ、ウクライナ

ティモ・ヴェフヴィラニエン中佐（ヘリ）メール：

pettter.vehvilanien@gmail.com **ヨーロッパ、南中部（ESC）アルバニア、アンドラ、オーストリア、ベルギー、ボスニア、クロアチア、チェコ共和国、フランス、ドイツ、ハンガリー、アイルランド、イタリア、コソボ、リヒテンシュタイン、ルクセンブルク、マルタ、モルドバ、モナコ、モンテネグロ、オランダ、ポルトガル、ルーマニア、サンマリノ、セルビア、スロバキア、スロベニア、スペイン、スイス、グレートブリテン及び北アイルランド連合王国、バチカン市国**

マイク・テリー牧師、海軍大佐（退役）（ニックィー・スー）

メール：mike@terry-home.co.uk

中東（ME）

アルジェリア、バーレーン、エジプト、イラン、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェート、レバノン、リビア、モーリタニア、モロッコ、オマーン、カタール、サウジアラビア、スーダン、シリア、チュニジア、アラブ首長国連邦、イエメン

退役大佐 イサム・ウメイシュ（グレース）メール：

isamoumeish@hotmail.com

太平洋地域（PAC）

オーストラリア、クック諸島、東ティモール、フィジ

ー、キリバス、マーシャル諸島、ミクロネシア連邦、

ナウル、ニュージーランド、パプアニューギニア、サ

モア、ソロモン諸島、トンガ、ツバル、バヌアツジェ

イミー・ヴァン・ヒール中佐（ジョー）メール：

j_j_van_heel@hotmail.com

クラスター:

アフリカ; AE、AF、AS、AW **アメリカ大**

陸; CA、NA、SA **アジア**;

AS、ASE、EA、PAC **ヨーロッパ**;

ENE、ESC、ME

セクション 1-2

AMCF 役員の役割

一般

1. AMCF 役員は、会長および地域副会長で構成される。これらの役員は合わせて AMCF の「会長団」を構成する。彼らはボランティアであり、複数の軍事宣教団体、MCF、その他各団体の能力の範囲内で支援を受けている。AMCF の成長に伴い、会長および一部の副会長は業務遂行のため、独自の事務支援が必要であると判断した。
2. AMCF 役員（会長団）は、各国の軍事キリスト教フェローシップ（MCF）の内部運営に対して一切の権限を有しません。彼らを指揮したり代表したりすることはありません。国内レベルでは、AMCF に関わる者たちを励まし支援することがその役割です。国際レベルでは、協会と各国の MCF の必要に基づき、励まし、指導、支援を提供します。
3. 各 AMCF 役員は、自身の活動における神の導きを求めるため随時会合できる「祈りと計画チーム」を結成する。彼らは「祈りと計画」プロセスを用いて、全ての奉仕活動を支える基盤とする。
4. 本節に記載された機能は、各役員が担当地域における AMCF の励ましと支援のために何ができるかを判断する手助けとなる提案として提供されています。また、MCF や連絡担当者に対し、役員の活動内容や提供可能な支援について理解を深めてもらう目的もあります。
5. 財政面では、AMCF 役員は完全にそのビジョンを共有する人々からの献金によって支えられています。寄付金は、必要に応じて ACCTS、MMI、MSO、または各国の MCF によって管理されます。

会長

6. 会長の通常の職務内容は以下の通りです：
   a. 副会長を任命し、大統領補佐団の他のメンバー、主要支援組織のリーダー、および歴代会長と協議の上、自身の後任を選出する。通常、任期は 10 年間である。
   b. 大統領会議の他のメンバーおよび主要支援組織のリーダーと協議の上、AMCF の地域グループ分けを決定する。
   c. 毎年「祈りの日」を呼びかけ、通常は土曜日に実施する。
   d. 主要支援組織 3 団体（ACCTS、MMI、MSO）と緊密に連携する。
   e. AMCF 地域副会長と連携し、その活動を奨励する。
   f. 必要に応じて MCF 指導者との連絡を密にする。
   g. 機会と資金が許す限り、励ましの訪問を行う。

地域副会長（VP）

7. AMCF 副会長は、その地域における軍隊内でのキリスト教的指導力の実績と、担当地域内の各国軍隊における福音への献身に基づき任命される。AMCF の活動を円滑に進めるため、14 の地域は概念的に 4 つのクラスター（アフリカ、アメリカ大陸、アジア、ヨーロッパ）にグループ化され、地域間の活動を促進する。主な活動内容は以下の通り：

– **アフリカ、アメリカ大陸、アジア、ヨーロッパ** – **こ**

れにより地域間の奉仕活動が円滑に行われる。彼らの通常の奉仕機能は以下の通りである： a. AMCF 会長の指導のもと、AMCF の使命と目標を達成するため活動し、地域会議での決定事項、それらの決定の実施状況、および MCF、MCF リーダー、AMCF にとって重要なその他の事項について会長に報告する。

b. 各地域の国内 MCF リーダーや連絡担当者との定期的な連絡・訪問（四半期に 1 回以上が望ましい）を通じ、神がその地域でどのように働かれているかを把握し、その働きに対して祈り、励まし、支援を提供すること。

c. 国内、地域、地域横断、世界規模の会議に参加する。これには、自身の地域またはクラスター内で開催される AMCF 会議の企画、推進、承認が含まれる。副会長は、自身の地域、クラスター、および主要支援組織が後援する会議の計画と実施に参加し、それらの会議が AMCF の目標と働きを支えることを確保すべきである。

d. ACCTS、MMI、MSO と連携し、自地域・クラスター内のミニストリーニーズを調整し、地域内および世界的なミニストリー支援方法を提案すること。

e. 自地域から AMCF および主要支援組織（PSO）のリーダーシップイベントに参加する軍人クリスチャン指導者の選抜を調整・推薦・助言し、選抜された参加者が支援を募り必要に応じて資金援助のスポンサー探しを支援する。

f. 地域の活動を適切な PSO と共有し、ニュースレター、報告書、その他の資料に掲載してもらう。

g. 地域を祈りの共同体へと変革するための適切な措置を講じること。

h. 後継者候補について AMCF 会長に推薦を行う。

8. 副会長候補者は、以下に概説するものと同様の初期オリエンテーションを受け、現職者による指導期間を経る。オリエンテーションの主題は通常以下の通りであり、そのほとんどは本ハンドブックに記載されている： a. AMCF の略歴 b. AMCF の機能

1) 使命、目標、組織
2) 大統領評議会と意思決定
3) 副会長の責任
4) PSO による副会長支援
5) MCF と AMCF の関係
6) AMCF リファレンスハンドブック c. ミニストリー基礎

1) 帰納的聖書研究
2) 対話的祈り
3) 祈りと計画のプロセス
4) 個人的な証し／伝道 d. 主要支援組織（PSO）

1) PSO の説明

2) MCF に対する PSO 支援

3) 合同支援・訓練チーム（CATT）

4) その他の支援組織

e. AMCF、地域 MCF、および軍事省庁環境における

現在の課題と動向。

意図的に空白のページ

セクション 1-3

祈りと計画

勧告

1. 軍人キリスト教団体は祈りの共同体でなければなりません。「祈りと計画のプロセス」は、MCF が自らの奉仕における神の計画を見極める助けとなります。このプロセスに備え、以下の聖句を心に留めましょう：

「二人または三人が、わたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる。」（マタイ 18:20
）

「あなたがたは、悪であるにもかかわらず、自分の子供に良い贈り物を与えることを知っている。それならなおさら、天の父は、求める者に聖霊を与えてくださるではないか。」（ルカ 11:13）

「同じように、御霊も私たちの弱さを助けてくださいます。私たちは、どのように祈るべきかを知らないからです。しかし、御霊ご自身が、言葉にできないうめきをもって、私たちのために執り成してくださいます。」（ローマ 8:26
）

「しかし、真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語ることはなく、聞いたことを語り、これから起こることをあなたがたに知らせるからです。」（ヨハネによる福音書 16:13）

「もしあなたがたのうちに知恵に欠けている者がいるなら、その人は神に願い求めなさい。神はすべての人に惜しみなく、責めることなくお与えになる方です。そうすれば、その人には与えられるでしょう。」（ヤコブの手紙 1:5）

「わたしは、あなたがたのために立てているわたしの計画を知っている」と主は言われる。「それは、災いではなく平安を与え、災いではなく、あなたがたに将来と希望を与えるための計画である。」（エレミヤ書 29:11）

なぜ祈り、計画するのか？

2. 神が個人または集団として特別な必要を示され、私たちが[1] 神のために特別な働きを組織する必要があるとき—その時、私たちは神がどのようにそれを成し遂げることを望んでおられるかを知る必要がある。このすべての基盤にあるのは、神との交わり—祈りである。
3. 以下の聖句は「祈りと計画」の聖書的根拠を示しています：

1 アンティオキアの教会には預言者たちと教師たちがいた。バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、マナエン（ヘロデ四分領主と共に育った者）、サウロであった。
サウロであった。2 彼らが主に仕え、断食していると、聖霊が言われた。『わたしが彼らを召した働きのために、バルナバとサウロをわたしにささげなさい。』そこで、彼らは断食し祈った後、彼らに手を置いて送り出した。」（使徒言行録 13:1-3）

祈りの一致

4. イエスが天に昇られた後、弟子たちは頻繁に祈りを共にした。そして、その祈りが彼らの働きに与えた影響は計り知れない！既に引用した聖句は、一致した祈りの効果を裏付けている。

int.org/ またはトム・キャップ大佐の著書『祈りと計画：神の心を発見し従う』

---

[1] P&P の詳細な説明は、AMCF ウェブサイト上の Crossfire 記事でご覧いただけます：http://www.amcf-

祈りと計画

5. 祈りと計画チームを結成する前に、神がグループに示された明確な必要性や懸念事項が存在しなければなりません。それが明らかになった後、例えば MCF のための新たなプログラムや、フェローシップが導かれていると感じる特定の活動やイベントなど、神は私たちが持つすべての資源を用いて、主のために行う各活動が最善を尽くして組織されることを期待されています。神は、単に祈るだけで、あとは神の介入によって全てが解決すると考えることを求めておられません。祈りと計画チームは中核的な企画委員会を形成し、可能な限り広範な祈りの支援を得るために支援グループを募る必要があります。

6. 大規模なプロジェクト（例：国際会議など）では、特定の側面を担当する下部組織の祈りと計画チームを設置することが望ましい場合があります。これも祈りと計画チームのリーダーを育成する良い手段です。

祈りと計画チーム

7. リーダー。他のチームと同様、祈りと計画チームにもリーダーが必要です。ただし、リーダーは必ずしも「最も優れた」祈りを捧げる者でも、最年長のクリスチャンでもありません。しかし、リーダーは成熟したクリスチャンであり、有能な組織者であり、リーダーとして広く受け入れられる人物でなければなりません。リーダーは祈りから実行可能な計画への転換を監督する役割を担うため、組織化の賜物を持つ人物であるべきです。

8. チームの規模。祈りと計画チームの規模は、課題の大きさやメンバーの参加可能状況などによって決まります。言えるのは、最低人数は 2 名であり、チームは必要最小限の人数に留めるべきである。

9. チームメンバー。祈りと計画チームの他のメンバーに特別な資格はありません。当然ながら、彼らはオープンな即興的または会話的な祈りを分かち合う意思のあるクリスチャンでなければなりません。また、計画中のイベントの準備段階で必要とされる時はいつでも、チームリーダーの指示に従える意思が必要です。

10. チームの準備。チーム結成後、最優先事項は全メンバーが祈りと計画の任務に備えることです。祈りと計画チームの基盤が不安定であれば、最終計画も同様に不安定になるため、これは特に重要です。 チームメンバーは聖霊に開かれ、神の前で清い良心を持つ必要があります。ローマ 12:8「…*からだをささげて、神に喜ばれる聖なる生ける供え物としてささげなさい。それが*、あなたがたの霊的な礼拝です…」の要求を読み、満たすべきであり、各祈りと計画の集会の前にこれを行うべきです。

11. 会議の頻度。祈りと計画チームの会議頻度はチームリーダーの責任である。リーダーは必要に応じて追加会議を招集しなければならない。イベントを計画する際、活動日が近づくにつれ会議頻度はおそらく増加する。会議はイベント直前まで継続し、その後も継続すべきである。特にフォローアップとしての賛美と感謝

、および得られた教訓の評価のためである。

12. **プロセス。祈りと計画の不可欠な出発点は、祈り**

と賛美である。祈りと計画の会議は、聖書（例えば詩篇、特に詩篇 63 や賛美の詩篇 148-150）の朗読から始め、最初の数分を賛美と礼拝に充てるのが有益である。この時間の目的は、神の御言葉に触れ、心を整え、集まった者たちが互いに祝福し合うことにある。神の御言葉（例：詩篇 63 篇、あるいは賛美の詩篇 148150 篇）を朗読し、最初の数分を賛美と礼拝に充てるのが有益である。この時間の目的は「*…あらゆる考えをキリストに従わせる*」ことにある（（*IIコリント 10:5*）。その後、チームリーダーは祈りが必要な主題を挙げ、必要に応じて背景を説明します。扱う内容が多い場合は、単一の項目や長いリストではなく、一度に数つの主題に絞るべきです。その後、挙げられた各主題について祈りの時間を持ちます

計画を見極める

13. 主は実際にどのようにしてチームに御計画を明らかにされるのか。議論は特定のメンバーに支配されるべきではなく、むしろチームは主の導きに敏感な、分かち合いと期待に満ちたクリスチャンの集団であるべきだ。問題について合意が得られない場合、グループは具体的な祈りに立ち返り、その後再び議論を通じて主が語っておられることを識別しようとするべきである。 祈りと計画の特徴は合意形成にあるが、新たな取り組みを始める際には、主が根本的な問題（例えば、他の全てが依存する取り組みの本質的な目的など）を明らかにされるまでに、グループが三、四回集まる必要がある場合もある。 主は原則を明らかにされるのと同様に、祈りと計画のチームに細部をも容易に示されます。主がチームを導き、会議のための緻密に練られた計画を導き出された例は無数にあります。要するに、主は心からの祈りと賛美を捧げ、期待に満ちた依存的な計画へと進む意思があるなら、いかなる信仰を持つクリスチャンのグループにも、その完全な計画を示されるのです。賛美を捧げ、期待と依存をもって計画に取り組むなら、主はどんな信じるクリスチャンのグループにも完全な計画を明らかにされる。

14. 計画プロセスの開始時、チームは問わねばならない：神の目的は何か？伝道か、より深い霊的教えか、地元のクリスチャン集団を一つにする必要か、それとも何か？神の目的が明らかにされるまで、目的や目標を効果的に定めることはできない。 議論を重ねても神の目的が明らかにならない場合、チームはさらに祈るため、黙想するため、あるいは主に耳を傾けるために立ち止まることを恐れてはならない。必要性を特定することが活動の形式を決定する。

15. 次にチームは、活動計画に影響を与えうる関連要因を評価しなければならない。本ハンドブック 29 ページの「集会開催ガイドライン」には、計画要因に関する包括的な指針が示されている。

16. これは祈りと計画チームの最大の関心領域であり、チームリーダーは祈りと議論の中で生じた全ての要素を記録すべきである。例えば MCF（ミニストリー・コミュニケーション・フレームワーク）の開発を計画する際には、各要素を祈りつつ慎重に検討することが特に重要である。これは、各要素から導かれる選択肢を全て検討した上で方針を決定することを意味する。

計画

17. この段階までに、計画の概要が浮かび上がり、明確な合意が形成されているべきです（そうでない場合は、さらなる祈りが必要です）。その後、祈りをもって計画

を確約し、記録に残し、会議の議事録に反映させます。これは重要なことです。なぜなら、サタンは絶えずチームの自信を揺るがそうとするからです。彼らは

この計画が聖書的な意義を持つことを改めて認識する必要がある（マタイ 18:9 参照）。また、計画の記録は議事録の形で速やかに発行され、次の祈りと計画チームの会議までに一貫した作業が進められるようにすべきである。

賛美と感謝

18. 祈りと計画チームは、主がチームに知恵と識別力を与えてくださったことへの賛美と感謝の時をもって、各会議を締めくくるべきである。

結論

19. 適切に準備された祈りと計画チームにとって、成し得ない事業など存在しない。ただ信仰の欠如だけが、働かれる聖霊の完全な可能性を制限するのだ：

「もしあなたがたにからし種ほどの信仰さえあれば、この山に向かって『ここからあそこに移れ』と言えば、移るであろう。あなたがたには、どんなこともできないことはない。」（マタイによる福音書 17:20）

セクション 1-4

AMCF 概略図

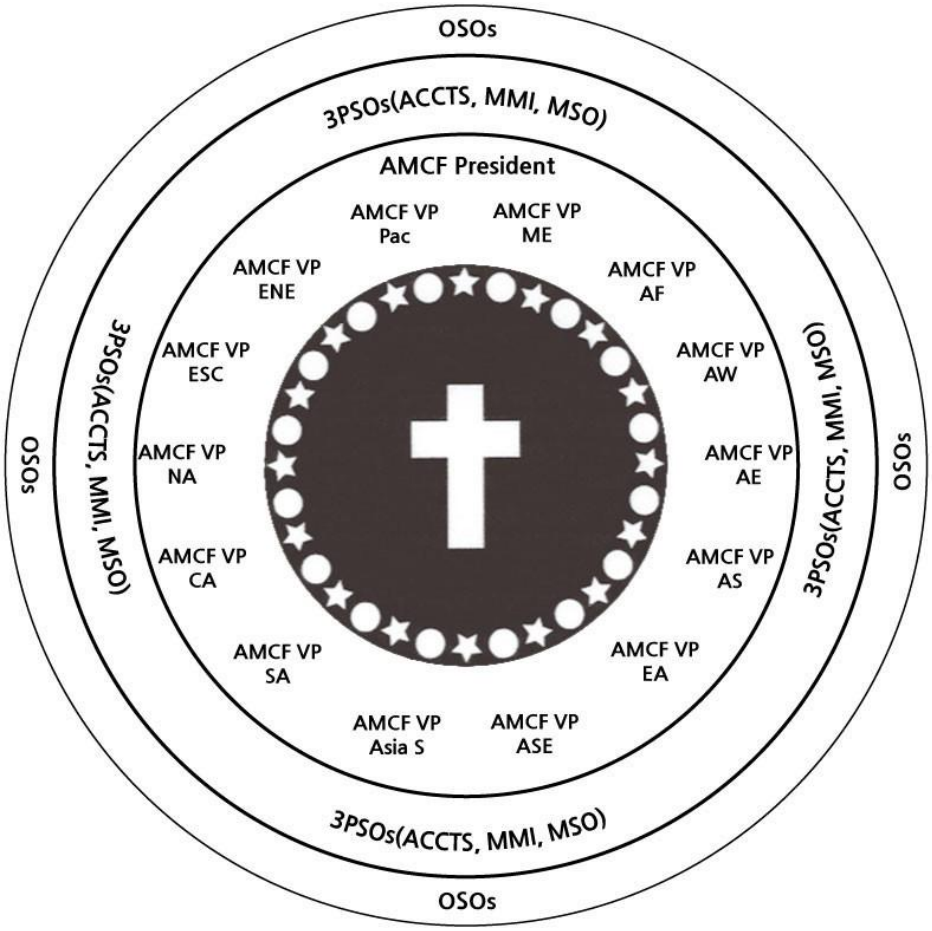


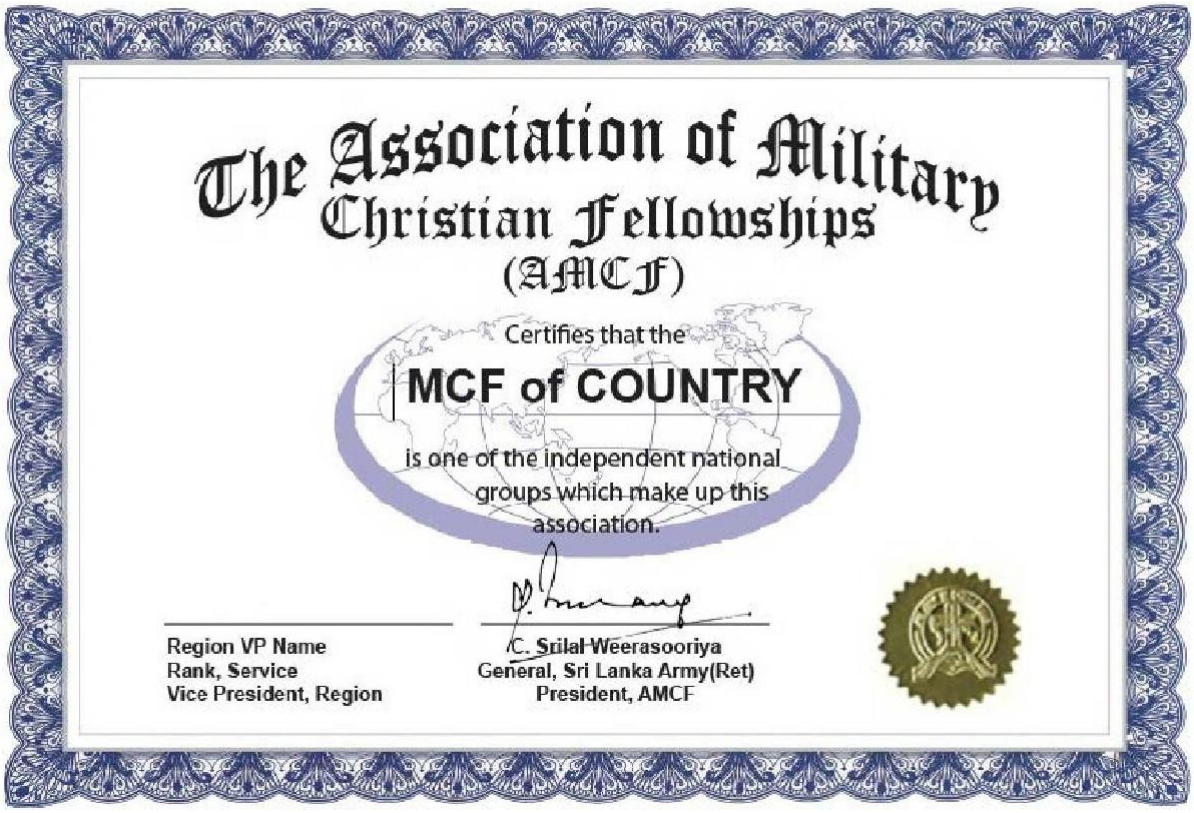
図 1.1 AMCF 概略図

注記：

1. **星と円は、神から直接指示を受ける** MCF **とコンタクトを表す**
2. AMCF **会長および副会長**
3. PSO **：主要支援組織**
4. OSOs: **その他の支援組織**

第 1-5 条

AMCF 協会証明書


The Association of Military Christian Fellowships
(AMCF)
Certifies that the
MCF of COUNTRY
is one of the independent national groups which make up this association.
Region VP Name
Rank, Service
Vice President, Region
C. Srilal Weerasooriya
General, Sri Lanka Army(Ret)
President, AMCF

「協会設立証明書」取得手続き

1. **新設** MCF：
   a. **第** 2 **章** 25 **ページ第** 6 **項「全国軍事キリスト教フェローシップの設立」に基づき設立された** MCF。
   b. **リーダー（会長、議長等）は、**MCF **の名称、選出された役員の氏名・役職、および** MCF **設立日を管轄地域副会長に通知する。**
   c. **地域副会長は情報を該当する** PSO **に転送し、**PSO **は** MSO **へ送付する。**
   d. MSO **は証明書を作成し、完成した証明書を地域** VP **に送付する。**
   e. **地域担当副社長が** MCF **に証明書を授与します。**

2. **新規または再発行の証明書が必要な既存** MCF：
   a. MCF **リーダーは、新規または再発行の証明書を地域担当副会長に申請します。**
   b. **地域副会長は申請を** MSO **に転送する。**
   c. MSO **は完成した証明書を** MCF **に送付し、その旨を地域副会長に通知する。**

注記： 1. PSO **スタッフは上記プロセスにおいて地域副会長を支援することがあります**

2. MSO **は** 2023 **年まで証明書の作成・配布を継続することを約束している。**

第 2 章

全国軍事キリスト教フェローシップ（MCFs）

「…あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって一つなのです。」（ガラテヤ 3:28）

勧告

主イエスは言われた。*「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる。」*（マタイ 18:20）

パウロはこう記しています。「互いに励まし合い、愛と善行に励むよう心がけ、集会を怠らないようにしましょう…」（ヘブライ 10:24-25）。ルカはこう記しています。*「彼らは毎日、神殿の境内や家々で、心を一つにして集まり、賛美と賛美の祈りをささげ…」（使徒 2:46）。*

彼らは家々でパンを裂き、喜びと誠実な心をもって共に食事をし…」（使徒 2:46）

1. クリスチャンたちは、主と互いに対する献身の重要な側面として、初めから集まっていました。

説明

2. 今日の軍隊では、クリスチャンの交わりのための集会が必ずしも容易ではありません。しかし、クリスチャンが集まることを可能にし、かつ規律ある軍隊の構造や国家の文化・利益を損なわないよう、障壁や境界線は慎重に調整されるべきです。

3. 軍隊牧師の奉仕に深い感謝を捧げつつ、あらゆる方法で彼らを支えたいと願う一方で、多くの現役クリスチャンは、牧師が不在の場所や軍隊牧師制度が存在しない地域・時間帯においても、集い、学び、祈り、信仰を証ししたいと切望しています。

4. 一部は地域で非公式なグループを形成して集う。国によってはこれが唯一の交わりの形となる場合もある。また、自国に勤務するキリスト教徒同士が国内転属時や国際派遣時にもつながりを保ち交わりを継続できるよう、より広範な組織化を求められている者もいる。

5. こうしたグループはしばしば、その集まりを「軍人キリスト教徒フェローシップ（MCF）」として正式に組織化することを決定します。これらのフェローシップは通常、非教派的でありながら、国家の文化、伝統、軍隊の精神を反映し、イエスが教えた*「カエサルのものはカエサルに、神のものは神に」*という原則を認識しています。（マタイによる福音書 22:21）設立後、各国のフェローシップは通常、軍事キリスト教フェローシップ協会（AMCF）への加盟を選択します。

設立

6. クリスチャン生活における大きな喜びの一つは、交わりの中で集うことです。また、この交わりを継続させる組織を維持することは、大きな責任の一つです。以下にいくつかの指針を示しますが、それらは使用される文化に合わせて適応させる必要があります。

7. 軍事キリスト教フェローシップは、同じ国の軍人クリスチャンが二人以上集まり、交わり、祈り、聖書研究、証しを行うことから始まる。

8. MCF の形成は、他国のフェローシップの事例、国際会

議、そして MCF のビジョンを共有しようとする人々の訪問によって促進される可能性がある。独立した国家レベルの MCF に適したモデルを採用するにあたっては、常に神の導きを第一に求めるべきである

。

アイデンティティ - 私たちは何と呼ぶか？

9. オーストラリア軍事キリスト教フェローシップ（MCF of A）のように、国名を冠した名称を選んだ例もある。MCF が選択する名称とその機能は、その組織固有の必要性から生まれるものである。

   a. 英国のように説明的な名称を選ぶ団体もあります：英国軍キリスト教連合（AFCU）。

   b. またドイツのコルネリウス協会（CoV）のように、聖書の人物に軍事的意味合いを込めた名称を採用するケースもあります。

   c. 国名の使用が敏感な問題となる可能性がある場合には、知恵をもって対応する必要があり、適切な場合には、新しい組織は適切な当局に登録すべきである。

10. 信仰基盤 - MCF 会員の基盤となるものは何か？

   a. 本質的な信仰を損なうことなく包括性を追求しつつ、会員資格の簡潔な基本原則を定めることが有益です。例えば使徒信条は包括的な信仰表明として広く用いられています。独自の声明を希望する場合、英国海軍キリスト教フェローシップの例が参考になります。同フェローシップの会員は：

   b. イエス・キリストを救い主かつ主として、個人的な信仰と忠誠を告白する。

   c. 互いを思いやりながら、日々の聖書朗読と祈りを実践するよう努めなさい。

   d. 他のクリスチャンとの交わりを保ち、一貫したキリスト教徒としての行動、義務への誠実な取り組み、そして主の力への個人的な証しを通して、イエス・キリストの御国を広げようとする努力を続けましょう。

11. 役職者 – 私たちはどのように自らを統治するか？ a. 指導者／会長／議長は祈りを込めて選出され、適切な軍司令官や霊的権威者に対する交わりの使節となる能力を持つべきである。

   b. 霊的・実践的賜物に基づいて選ばれた支援委員会は、交わりの事務を統括し、軍牧師（配置されている場合）との継続的な連絡を維持すべきである。

   c. 初期段階では運営は簡素でもよいが、共同体が発展するにつれ、書記、会計、ウェブマスター、ニュース編集者などの役職が必要となり、事務所スペースの確保も求められるかもしれない。世界中の多くの共同体ではこれらの業務はボランティアが担っているが、他の MCF では有給スタッフを雇用している。

12. 祈りの基盤 - どのように祈り、誰が私たちのために祈るのか？

a.　**前進の道を探る際には、指導者が神から与えら**

れたビジョン（使徒言行録 13:1-3）とそれを実行する計画を持つことが不可欠です。「祈りと計画」は MCF 活動の基盤となる原則の一つです（19 ページ参照）。その後、より広範な祈りの支援を求めることができます。現役および退役軍人双方の祈りは強固な祈りの基盤となり、これに MCF 自国内の共感する教会による祈りと実践的な支援が加わります。現役・退役軍人双方が強力な祈りの基盤を提供でき、これに MCF 所属国内の協力的な教会による祈りと実践的支援が加わる。

b. 祈りの奉仕が成長するにつれ、小さなとりなしの祈りグループが設立されることもある。軍隊の霊的・肉体的健康を気遣うクリスチャンは、定期的に集まり、秘密裏に連絡を取り合っている特定の現役軍人のために祈ることができる。このような祈りのつながりは、多くの MCF から高く評価されている。

13. コミュニケーション - どのように人々をつなぎ、状況を把握するのか？

a. 良好なコミュニケーションの基盤となるのは、信頼性が高く迅速に対応できる連絡窓口と、安全で正確な会員データベースである。

b. 多くのキリスト教団体（MCF）は月例ニュースレターを発行し、祈りの要請や会員の連絡先を掲載しています。ウェブサイトや電子媒体は印刷物を補完し、経済的な広報活動と会員間の良好なコミュニケーションを可能にします。ただし、キリスト教信仰に理解のない政府や機関によって通信が傍受される可能性がある場合には注意が必要です。

14. 財務 - 経費はどう賄うか？

a. 各 MCF が財政的に自立していることが重要です
。設立費用や事務機器など一時的なニーズを満たすための支援は得られる場合もありますが、日常的な運営は外部資金に依存すべきではありません。外部資金に依存すべきではない。会費制を採用する団体もあれば、任意の寄付に頼る団体もある。

b. 会員への透明性と法的当局への良き証しを確保するため、適切な銀行取引と独立した監査手続きを確立することが重要です。

c. 政府が外国の資金関与や影響力、特に自国軍関係者に関わることに敏感な場合、知恵と慎重な判断が不可欠である。

15. 成長 — 信仰に基づく働きを継続することは、それを始めることよりも重要です。

a. 英国の提督サー・フランシス・ドレイクはこう記している。「*あらゆる偉業には始まりが必要だが、完全に成し遂げられるまで終わりまで継続することこそが真の栄光をもたらすのだ。*」（ドレイク書簡 1587 年 5 月 17 日）

b. ルカはこう記している。「*彼らは毎日、神殿の境内ではじめて集まり、家ではパンを裂き、喜びと誠実な心をもって共に食事をした。*」（使徒言行録 2:46）

16. 活動 - 何をすべきか？ 軍人キリスト教友愛会は、軍務に就くクリスチャンが互いに繋がり、礼拝、祈り、聖書研究、伝道、そしてキリスト者同士の交わりから生まれる励ましを分かち合うための枠組みを提供します。

17. 集会 - いつ集まるべきか？

a. 地域のフェローシップは通常、聖書研究、祈り

、可能であれば証しを分かち合うための定期的な

週次または月次の集会を、基地や艦船内では、指揮官の許可を得て、軍牧師（いる場合）と協力して行います。

b. 各グループの集会は、ニュースレターや電子媒体で相互に連携させましょう。誘導的聖書研究法や対話的祈りなど、祈りと聖書研究の技法については 38 ページと 42 ページで説明しています

。

18. 週末と休暇期間の活動 — 地域の集会以上の活動は？

a. やがて、祈りつつ計画を立て、キリスト教に焦点を当てた週末や休暇期間を設け、異なる地域からメンバーを集めることが可能になるでしょう。

b. こうしたより広範な集まりは、地域レベルで発揮される賜物を統合し、新しい指導者を育成し、霊的な成熟と忠実な弟子としての歩みを促すでしょう。

19. セミナー、講座、会議 — どうすれば霊的に成長できるか？

a. キリスト教活動のあらゆる側面は深化させることができ、専門的な訓練コースで賜物を伸ばすことも可能です。聖書的基盤とキリスト教倫理の実践的応用は、軍務に就くクリスチャン、リーダーシップ、人間関係、結婚、子育てといった分野で探求できます。行事への参加はクリスチャンに限定する必要はありません。

b. 軍事指揮官に対し、MCF がこうした主題に関する訓練・指導を提供することで作戦効果の向上に如何に貢献し得るかを認識するよう促すべきである。国内の MCF にはこうした大会を運営できる体制が整っていない場合もあるが、国内外から適格な講演者を招請することは可能である

。

大会を運営するには設備が整っていない可能性があるが、国内外から適格な講師を招くことは可能である。

20. 伝道—どのように御言葉を広めるか？ **a.** イエスは言われた。*「しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレム、ユダヤ、サマリア、そして地の果てに至るまで、わたしの証人となる。*

」（使徒言行録 1:8）伝道には段階があり、地域から始まり、地域全体へ広がり、国際的に発展する。まずは地元の定期集会への個人的な招待や、一貫した個人的な証しと生活様式を通じて始めよ。

b. イエスはまたこう言われました。*「天と地の一切の権威は、わたしに与えられている。だから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子*

とし、父と子と聖霊の名によって彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じたことをすべて守るように教えなさい。」（マタイ 28:19-20）

c. 伝道に関する助言は 46-48 ページ「個人伝道」に記載されている。

d. 軍関係者は、大宣教命令の挑戦に立ち向かう機会が一般よりも多い。多国籍軍の展開が増加しており、様々な背景を持つ派遣クリスチャン同士の交わりの可能性はかつてないほど高まっている。国際的な側面については、30 ページ「協会」でさらに取り上げている。

21. 統治 - 指導部はどのように説明責任を果たすのか？

a. MCF が成長するにつれ、より正式なガバナン

ス文書が必要となる可能性があります。これらは運営指針となり、法的地位を確立する役割も果たすでしょう。これらの文書には、定款、細則、運営手順、その他の書面による合意事項が含まれ、秩序ある運営を保証します。

b. また、すべての会員が年次総会（AGM）においてフェローシップに関する意見を表明する機会を持つことが重要です。年次総会では、リーダーシップチームが前年度の活動報告と次年度の計画を報告します。フェローシップの財務に関する説明は常に含めるべきです。多くのフェローシップでは、年次総会を全フェローシップ参加型の週末カンファレンスと組み合わせています。

c. 詳細な助言やガイダンスは主要支援団体を通じて入手可能です。

22. 協会 – どのように連携できるか？

a. 異なる基地や場所で集うグループを結びつけることで、国内における MCF は強化されます。しかし、国際的にはさらに広範な交流と交わりの余地があります。

b. AMCF は、組織化されたフェローシップが存在しない国々の国内 MCF 及び個々の軍人クリスチャンによる世界的な協会です。

c. 国内 MCF は、地域担当副会長に申請することで AMCF と提携できます。地域担当副会長は、国内 MCF を世界的な協会に招待する自由も有しています。AMCF 地域担当副会長は副会長は、定期的な連絡、訪問、現地行事への参加、地域・国際集会調整を通じ、常に MCF への助言と励ましを提供します。AMCF 地域副会長の詳細は 13 ページ「AMCF 役員と地域」および AMCF ウェブサイト http://www.amcfint.org/regions.htm に掲載されています。

d. 3 つの PSO は連携して、MCF の設立・成長・連携を促進します。また、各国の MCF が AMCF と提携する手助けもします。その働きは第 3 章で詳しく説明されています。PSO は助言、リソース提供、訪問、会議・研修セミナー・リトリートでの支援を提供します。 PSO は福音の交わりにおいてあらゆるレベルの MCF を支援・協力するために存在し、さらなる助言を求める連絡が可能です。PSO のメールアドレスとウェブサイトは以下の通りです：

ACCTS: アメリカ合衆国 Web: http://www.accts.orgEmail: accts@accts.org

MMI：イギリス Web：

http://www.mmi.org.ukEmail：

headoffice@mmi.org.uk

MSO: 大韓民国

Web: www.mso.or.kr

メール: **mso.amcf@gmail.com**

会議開催ガイドライン

はじめに

1. 背景。軍事キリスト教フェローシップ（MCF）が成長するにつれ、通常、グループとして学び、共同礼拝と交わりを持ち、業務を遂行するために集まりたいと願う段階に達します。共に集まることは信仰を築き、孤立した信徒を励まします。会議の開催は、この必要を満たす一つの方法となり得ます。2020年から2021年に

かけてのCOVID危機の間、多くのMCFは、GoToMeeting、Skype、Zoomなどのオンライン技術を用いて会議や集会を行いました。 こうした集まりは対面イベントのような交わりを提供しなかったものの、オンライン会議は計画の手間が少なく、より頻繁に集まり、より多くの人々に低コストでリーチすることが可能でした。パンデミック制限が緩和され始めると、一部のMCFは移動可能な参加者と不可能な参加者の双方に対応するため、対面とオンライン参加者を組み合わせた形式を採用しました。MCFは今後の状況に応じて、今後の集会においてこうした技術の活用拡大を検討するとよいでしょう。

2. 目的。本節の目的は、地域、国内、国際、あるいは世界規模の環境下で会議を開催するための有益なガイドラインを提供することである。本ガイドラインに含まれる原則と手法は、会議以外の会合や、MCFまたは主要支援組織（PSO）—ACCTS、MMI、

MSO—が実施または提供する各種トレーニングの開催にも適用可能である。

3. 会議の種類。AMCFが採用する会議の種類には、以下のカテゴリーが含まれる：

a. 地域・国内レベル会議。地域・国内レベル会議は、各国のMCFが主催する。この種の会議は通常、国内MCFのメンバー間の信仰と交わりを深める効果的な手段を提供する。

b. 国際レベルの会議。複数の国々で活発なMCFが活動しているクラスター、地域、および準地域は、AMCFの国際レベルの会議を開催するために集まることを望むかもしれない。 通常、前回同種会議の参加者が次回開催時期・場所を決定する。

AMCF **名義での開催を希望する国内** MCF **は、実施能**

力を判断した上で、該当する AMCF 副会長を通じて承認を求める。これらの会議は AMCF の目標と活動を推進する目的のみで実施される。 会議主催者は、あらゆる面でイエス・キリストを尊び、 AMCF の非教派・非政治的性質および「*キリスト・イエスにあってすべては一つ*」という AMCF のモットーに合致するプログラムを組織することが求められます。地域担当 AMCF 副会長には計画過程を通じて情報を提供し、指導の機会を与えるべきです。3 つの主要支援組織（ACCTS、 MMI、MSO）が主催 MCF を支援する方法は第 3 章に記載されている。計画の初期段階から主要支援組織（PSO）を関与させるのが慣例であり、計画

策定において有益であることが証明されている。

c. 世界レベル会議。世界会議は複雑かつ費用がかかるため、従来は 10 年ごとに開催されてきた。

AMCF 会長団と主要支援組織（PSO）のスタッフは、通常 5 年ごとの会合で将来の世界会議について協議する。

4. 計画期間。AMCF 世界会議の推奨計画期間は少なくとも 24 か月、クラスター会議・地域会議・準地域会議などの主要会議は少なくとも 12 か月とする。 国内レベルの会議の推奨計画期間は少なくとも 9 か月、地域レベルの会議には最低 6 か月が提案される。政府支援を求める場合、国家予算編成プロセスに準拠するため 18 か月の準備期間が必要となる可能性が高い。ただし、これらの計画期間は各会議の状況に依存する。

5. プロセス。会議の実施には相当な計画と準備が必要です：全プロセスは、神の導きを求める、ゆったりとした瞑想的な祈りに包まれるべきです。計画に先立って祈り、計画中は特に困難が生じた際に頻繁に祈りに頼るべきです。「祈りと計画のプロセス」に関する詳細は、本ハンドブック 19 ページに記載されています。

6. ガイドライン。以下のガイドラインとチェックリストは、MCF、AMCF、PSO のリーダーが会議の準備を行う際に役立つよう提供されています。これらは非常に包括的であり、ほとんどの状況をカバーすることを意図しています。すべての会議にすべてが適用されるわけではありません。

初期対応

7. 主催団体は以下の責任を負います：

a. 目的の定義：この会議はなぜ開催されるのか？ b. 目標の設定：達成すべき全体像を示すため、会議プログラムは目標達成に向けられるべきである。

c. 目標達成に必要な目的を決定する。参加者への望ましい影響と会議終了後の成果を可視化する。目的達成後のフォローアップ担当者を決定する。

d. テーマの定義：参加者が会議の目標に集中できるよう導くものであること。

e. 日程の選定。祝日や既に予定されている他のイベントとの重複を避ける。

f. **会議コーディネーターを任命し、準備の各要素のリーダーを選出して企画委員会を構成する。大規模な会議では、宿泊委員会など、イベントの特定の側面を祈りつつ計画するための別々の委員会を設ける必要がある場合もある。**

準備計画

8. **以下の計画を立てること：**

   a. **祈りのサポート**

b. **プログラム**

c. 広報

d. 運営

e. 財務

f. 代表者受け入れ

g. ロジスティクス

h. 警備

i. リハーサル

祈りのサポート計画

9. 会議のための祈りの支援を得る方法として、以下のようなものがあります：

a. MCF、AMCF、ACCTS/MMI/MSO 刊行物 b. 祈りのサポートグループや MCF（キリスト教青年会）その他の民間教会のコミュニティなど、献身的なチーム

c. 地域の祈りグループ d. 個人の祈り e. 定期的なメール配信「賛美の便りと祈りの要請」

f. 祈りのカード、しおり、祈りのリマインダー g. イベント前および開催期間中の運営スタッフ向け定期的（毎日、毎週、毎月）祈祷会

h. 断食祈り、週単位・月単位の集中祈りなど特別祈祷会

プログラム計画

10. 会議プログラム設定において考慮すべき最も一般的な項目は以下の通りです。

a. 会場。適切な会議場または会場を手配する。予想される参加者を収容できる十分な広さであり、豪華すぎない適切な設備を備えていることが望ましい。会場の事前予約は必須である。また、会場がキリスト教の礼拝、祈り、交わりに適しており、十分なセキュリティを提供できることが推奨される。会場がキリスト教の礼拝、祈り、交わりに適しており、十分なセキュリティを提供できることも推奨される。

b. 目標と目的。目標達成のための最適な方法を決定する。講演者、セミナー、ワークショップ、実演、交流、あるいはそれらの組み合わせによる方法が考えられる。

c. プログラムスケジュール。プログラムスケジュールを作成する。開始・終了時刻は移動要件を考慮に入れること。場合によっては、参加者の移動スケジュールに合わせ、追加滞在日を設ける準備をすること。計画されている場合は、見学ツアーを含めること。セッション間の交流や休憩のための十分な時間を確保すること。

d. 女性向けプログラム。女性軍人、キリスト教徒の妻、軍隊奉仕活動に従事する民間女性ボランティアの参加を促進するプログラムであることを確認してください。

e. 子ども向けプログラム。必要に応じて子ども向けプログラムを設け、大人向けプログラムと連携させる

こと。事前に保護者に対し、子ども向けプログラムの範囲と場所を周知すること。

f. 交流プログラム。会議終了後の交流プログラムの実施を強く推奨します。このプログラムは交わりと学びを深める絶好の機会となります。

g. 監督体制。参加者が適切な時間に適切な場所へ移動できるよう、時間単位でのスケジュール監督体制を整えること。

11. **講演者：** a. **講演者／チーム、子供向けプログラム**

リーダー、音楽担当者の選定と招待を行う。演奏者を厳選し招待する。発表内容は参加者のレベルに合致させること（過度に単純でも複雑でもない）。提示される全ての資料が目標と目的を支持することを確認する。

講演者の時間枠を明確に示し、時間超過の重要性を強調すること。時間終了を知らせる合図を用意することを検討すること。提供される体験内容と謝礼を決定し、事前に通知すること。配布資料の準備、必要な特殊機材（例：ビデオプロジェクター、ノートパソコン、スクリーン、マイク、スピーカー、テレビなど）の確認について講演者と調整すること。

b. 講演者は会議にふさわしい経験と質を備えていることを確認する。少なくとも 1〜2 名は開催国出身者とする。可能な限り地域出身者を選出する。会議が個人の特定奉仕活動の宣伝・実践の場とならないよう注意する。地域 AMCF 副会長および ACCTS/MMI/MSO は講演者選定において大いに役立つ。

c. 会議終了後、謝礼を同封したお礼状を適切に作成すること。

12. ファシリテーター：a. 主要な会議の議長または司会者を選出し、事前に説明を行う。

b. リーダー／グループリーダーと小グループのメンバーを選出し、会議室に割り当ててください。

c. 賛美と礼拝のリーダーおよびグループを選出する

13. 会議室:

a. 演壇・講壇などの会議室「備品」を用意する。特殊機器（予備電球、駆動ベルト、発電機など）も同様。

b. 会場の準備—花飾り、掲示物の配置、十分な座席数、使用予定全室レイアウトを整える。

c. 必要に応じて、各場所や会場で演奏する音楽家向けに楽譜や楽器を用意する。各場所の参加者向けに十分な量の賛美歌集/合唱譜を用意する。場合によっては、プロジェクターを使用して賛美を導くこともある。必要に応じて、マイク、スピーカー、オーディオ・ビデオレコーダーなどの音響・録音機器と操作員を用意する。

d. 必要に応じて通訳者を手配する。

e. 自然な写真と公式写真を撮影できる有能なカメラマンを手配する。迅速に現像・ラベル付けし、参加者が購入できるようにし、スポンサーが後で使用できるようにする。必要に応じて DVD を作成するか、オンライン写真サイトを提供する。

f. 指示に従い書籍コーナーと宣伝資料の展示を準備する。

代表者の選定

14. 代表者の参加計画においては、以下の指針を考慮すること：

a. 国際会議の場合、通常、参加代表者の半数以上が主催国出身者とならないようにする。

b. 可能な限り、地域全体から均等に代表者を配分するよう努めるべきである。

C．代表者が他の組織から財政支援を受けている場合、

当該地域の適切な副会長を通じて支援組織と緊密に連携すべきである。支援組織と地域の適切な VP を通じて緊密に連携すべきである。

礼拝、式典、および訓練

15. 適切な開会礼拝と閉会礼拝を準備する。
16. 毎日の礼拝を準備する。
17. 聖餐式が予定されている場合は、必要な物品を全て用意すること。この種の礼拝を計画する際には、教派の事情に細心の注意を払わなければならない。
18. 必要に応じて、伝統的な開催国によるパフォーマンスなど、その他の式典やイベントを手配する。
19. 可能であれば、会議の最終段階として交流プログラムの計画を立てる。
20. 国内報告：各国代表が自国の MCF の活動を紹介する機会を設ける。簡潔な配布資料やパワーポイントを用いた 5 分間のプレゼンテーション、あるいは写真展示用の簡易ブースなど形式は問わない。ただし壇上での発表である必要はない。
21. チャプレンの参加：プログラムへのチャプレンの参加を奨励する。チャプレンと MCF は可能な限り常に協働を図るべきである。
22. 招待状：a. パンフレット／招待状を作成・配布する。参加者が追加情報を入手する方法についてのガイダンスを必ず用意する。
    b. 受取人が会議への参加可否を明示できることを確認すること。
    c. MOD（国防省）やその他の政府機関、などへ正式な招待状を送付する場合は、該当する MCF 及び主要関係者に招待状を CC で送付すること。
    d. 招待者への回答締切日を決定する。事前に参加人数を把握することで、ホテルやその他の宿泊施設の予約が円滑に進む。

広報計画

23. 広報：
    a. 広報委員会を設置する。
    b. 会議に関する通知を MCF、AMCF、ACCTS/MMI/MSO に掲載するよう依頼する。
    c. 掲示板や告知板に広報を掲示する（事前の許可取得を忘れずに）。
    d. 今後のイベントに向けた展示物を準備する。
    e. メディア担当者を選任し、メディア関係者との連絡を担当させる。
    f. キリスト教ラジオ、テレビ、新聞、ウェブサイト、電子メールを通じて宣伝する。
    g. 効果のない宣伝資料に資源を浪費しないよう注意すること。

運営計画

24. **管理者：プロジェクト担当者、事務員、会計担当者などを含む管理チームを任命する。会議運営のための内部規則を確立し、計画立案、調整、記録、報告作成、出版物作成などを含む。**

25. 一般事項：事前登録・予約の記録と参加案内発行の

システムを整備する。これには、旅行手配、ビザ・通関手続き、衛生管理、現地の疾病に関するガイダンスを含めること。問題点、会議会場の電圧、会議開催時の天候状況、および服装に関する推奨事項。

26. 名簿：参加者全員の名簿を作成し、登録時に収集した全情報を記載すること。

27. 通信手段：円滑な連絡と運営支援のため、通信システム（電話、ウェブサイト、インターネット）を確立する。関連電話番号、ウェブサイト、メールアドレス、連絡先などを共有し周知する。

28. ビザ：参加者は各自でビザを取得する責任を負う。開催国はビザ取得に必要な招待状やその他の書類の発行を支援する。

a. 現地規則：ペット、飲酒、喫煙、夜間外出禁止令、施錠、交通システム、特定の習慣や文化などに関する現地規則を参加者に周知し、遵守を確保する。

b. 保険：会場が提供する保険の補償範囲と対象外事項を確認し、必要に応じて追加補償を取得する。

c. セキュリティ：個人・団体・会場の警備必要性を検討し、計画を策定する。警備計画と連携する。

財務計画

29. 予算編成：予算を作成し、資金調達方法を決定する。

30. 資金調達： a. 国内および参加代表団からの資金調達を促進する。早期に開始する必要がある。

b. 代表団の所属軍からの公式スポンサーシップを要請すべきである。

c. ケータリング業者や会議場スタッフと協議し、現地でのチップの慣習を確認し、確実に徴収・支払われるようにする。

d. 軍隊奉仕に関心を持つ民間教会コミュニティを探すべきである。

31. 金銭の取り扱い： a. 集めた金銭（献金を含む）は全て安全に保管し、会計処理を行うこと。

b. 会議専用の銀行口座開設を強く推奨します。

c. 会議の全経費を支払う。

d. 説明責任は不可欠であり、財務経験のある会計担当者が望ましい。

e. 資金は祈りと計画のプロセスを通じて配分・使用すること。

受付計画

32. 到着地点での送迎： a. 参加者の到着時刻を確認し、到着港から受付場所までの輸送計画を準備する。

b. 異なる到着時刻に対応する送迎チームを編成する。到着港における入港・出港プロセス中の不測の事態に備えた計画を準備する。

c. 到着港で参加者を見失った場合の対応場所を計画する。

33. 受付手順： a. 受付エリアの準備とスタッフ配置（交代要員を含む）。

b. **到着する代表者を出迎えるホスト・ホステスを用意**

すると効果的です。その役割には、登録時に荷物を置く場所の案内、適切な登録列への誘導、必要に応じて宿泊施設への案内も行う。大規模な会議では、会議の性質に応じて、言語や出身地域、または姓のアルファベット順によるグループ分けで列を分けると効果的である。 登録手続きには、記入用書類、支払金の徴収、参加者情報パッケージ（プログラム、会場マップ、名札、ルームキー、発行される場合は身分証明書またはセキュリティカード、安全・セキュリティに関するハウスルール、医療緊急時の対応ガイダンス、料金、宿泊施設への案内）の配布を含めるよう計画する。

c. 遅刻者の対応を調整し、登録手続きと遅い時間の食事提供を含める。

d. 遅れて出発する参加者への対応を調整し、宿泊施設、食事、出発港までの交通手段を手配する。

ロジスティクス計画

34. 資材：会議に必要な全ての設備、備品、資材を調達する。必要な資材のチェックリストを作成することで、漏れなく準備を進めるのに役立つ。

35. 食事と宿泊：参加者の食事と宿泊の手配計画を立てる。参加者の食事制限を考慮する。

36. 宿泊施設。参加者の宿泊計画を策定する。管理部門と連携する。

37. 医療サービス：救急キットを含む医療体制を整え、必要に応じて救急車・看護師・医師の手配を確保すること。緊急時対応を含む利用可能な医療サービスの詳細を準備し、登録時に参加者に提供すること。登録用紙には必要な医療情報を記載するよう求めることができる。

38. 保育：乳幼児が参加する場合、哺乳瓶の温め、おむつ処理、洗濯・乾燥設備、ベビーカー駐車スペース、チャイルドシートやキャリーコットなど特別なニーズに対応する計画を立てる。

39. 障がい者対応：障がいのある方が招待される場合は、障がい種別に応じた特別なニーズに対応する計画を立てる。必要に応じて適切な介助者を配置すること。

40. 会場案内図：会場位置を示す地図／ルートカードを作成し、登録案内に同封してください。

41. 交通手段：

a. 電車、バス、船舶、航空機で到着・出発する参加者の送迎を手配する。受付と調整を行う。

b. タクシー、バス、リムジン、地下鉄、鉄道駅の現地地図と電話番号を入手する。受付係と連携する。

c. 計画されている場合、参加者向け観光バスを手配する。

d. 可能であれば、軍輸送部門からの支援を確保する。

e. 必要に応じて駐車場の手配を行う。有料駐車場の場合は駐車計画を準備する。

42. 観光。会議の前後に参加者が観光できるよう計画を準備する。文化・歴史的観光地やキリスト教関連の軍事活動を組み込む。

43. ホームステイ。可能であれば、参加者がホームステイを楽しめる計画を準備する。ホームステイを受け入れるボランティアの募集が不可欠である。

経験上、ホームステイは一家庭での滞在は 2 泊を超えないようにすること。

保安計画

44. 安全が最優先事項である：あらゆる保安事項のあらゆる側面について計画を策定すること。

47. 参加者。参加者の安全確保計画を策定する。宗教的自由が問題となっている国からの参加者が含まれる場合、十分な安全対策を提供するための慎重な計画が必要である。地域担当副会長および PSO スタッフは、この件に関して有益な助言を提供できる可能性がある。

48. ウェブサイト。必要に応じて、ウェブサイト通信のセキュリティ計画を準備する。

リハーサル計画

49. リハーサル計画を策定する：

a. 会議実施前に当初計画を評価・調整する。b. プログラムの段階的なチェックを含めること

。

45. 会議会場：会議会場のセキュリティ計画を策定する。

46. 必要に応じて政府の保安機関と連携する

。

c. 会議会場を実際に下見し、会議室の設定を確認する。

d. 宿泊施設を確認する。

e. その他全ての計画に関する調整指示を再確認する。

フォローアップ計画

50. 会議で決定された事項の進捗状況をどのように監視するか？ a. 誰に報告すべきか？

b. 報告頻度はどの程度にするべきか？

最終的な言葉

51. ACCTS/MMI/MSO と緊密に連携し、彼らがこうしたイベントの円滑な運営を支援するために存在していることを認識し、MCF メンバーが会議を開催する際に神が与えてくださる祝福を受け取れるよう支援に努めましょう。

AMCF レッスンプラン

はじめに c.

1. **帰納的聖書研究、対話的祈り、個人伝道のレッスンプランは、数十年にわたり効果的に活用され、**

AMCF **内で、祈りに忠実で、神の言葉（聖書）に精通し、イエスの「*天と地の一切の権威がわたしに与えられている。 だから、あなたがたは行って、あら*** d.

ゆる国の人々を弟子とし、父と子と聖霊の名によって彼らにバプテスマを授け 私があなたがたに命じたすべてのことを守るように教えなさい。見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」（マタイ 28:19-20）***に従うための個人伝道に備える軍人クリスチャン指導者を育成するために、数十年にわたり効果的に活用されてきました。***

2. **帰納的聖書研究と対話的祈りの授業計画とワークシ個人伝道の授業計画は約** 1 **時間かかり、**15 **分間の実践演習を含みます。教材は利用可能な時間に合わせ調整可能です。ワークシートの空欄の解答は全て授業計画内で下線が引かれています**

。

聖書倫理の授業計画は約 1 **時間で、**35 **分間の実践演習を含みます。教材は利用可能な時間に合わせ調整可能です。ワークシートの解答は授業計画内で下線が引かれています。特定の倫理的ジレンマへの対処法に関する追加授業計画、および制服を着用する職務における倫理的行動に関するその他の文書は、**ACCTS、MMI、MSO **のウェブサイトで入手可能です。**

3. 4 **つの授業計画とワークシートはすべて、必要にートは、併用することを想定して設計されています応じて複製・使用できます。**

。ワークシートは生徒に配布し、教材を提示している間に空白を埋めるよう指導すべきです。これにより、単に聞くだけの場合よりも効果的に学びます。たとえうまくできなくても、要約に主要なポイントがすべて記載されています： a. **教師用誘導的聖書研究レッスンプランは** 1 **時間授業を想定しています。**

b. 会話的祈りの授業計画は 20 分を想定しており、その後、少人数グループでの会話的祈りの時間を設けるべきです。

帰納的聖書研究

小グループ軍事モデル授業計画

導入（5 分間、目標を含む）

1. 聖書研究には様々な形態があります：主題別、人物別、書物別など。
2. 聖書研究の方法も、正式な講義から個人学習まで様々です。
3. どの形式や方法を選ぶかは、グループと目的によって異なります。正式な教えだけを選ぶ MCF もあれば、この方法を使うのが好きな MCF もあります。
4. ほとんどの軍人キリスト教団体の目的には、軍隊内での大宣教命令の実行と、会員の霊的成熟への支援が含まれます。
5. 多くの MCF の経験から、この少人数軍事グループモデルである帰納的聖書研究は、神の言葉を学ぶ唯一の方法ではないものの、最も効果的な手法の一つであることが分かっています。指導力のある者なら誰でも主導でき、神学的な訓練を必要としません。なぜなら聖霊が啓示を与え、理解をもたらすからです。

目的：本プレゼンテーション終了時までに、以下のことができるようになること：

1. 帰納的聖書研究を自身の言葉で定義する。
2. 四つの基本指針を述べる。
3. 帰納的聖書研究を主導する。
4. 帰納的聖書研究を評価できる。

プレゼンテーション（10 分間）

1. 定義。帰納的聖書研究とは：
   a. 聖書の限定された部分（通常は一章、時にはそれ以下、まれにそれ以上）を研究すること。
   b. 最適人数 6〜8 名の、ほぼ同レベルの少人数グループによる研究。
   c. 非公式で発見型のスタイルによる研究であり、基本的に聖霊に導かれた自己学習である。
2. 基本指針。これらは厳格な規則ではない。
   a. 聖句に忠実に。研究は選択された部分に限定される。参加の難しさで誰かが落胆しないよう、補足聖句や証言は通常使用しない。
   b. 参加希望者は全員参加するが、強制はしない。

c. 誰も支配しない。

3. 選択した部分について次の 3 つの質問に答えなさい：

a. 何が述べられているか？ 内容。以下のような質問に答えなさい：誰が？何が？いつ？どこで？どのように？

b. 何を意味しているか？ 発見。教訓、約束、命令、警告、あるいは良い／悪い例はあるか？ 神について何を学べるか？

c. 私にとって何を意味するのか？ 適用。発見したことをどう生かすか？

4. リーダーの責務*（リーダーは進行役です。理解を与えるのは聖霊です）*

a. 聖書研究の準備。主に事務的な準備です。場所、時間、参加者、内容、軽食の有無、全員分の聖書が揃っているかなどを決定します。事前に祈りつつレッスンを研究してください。

b. 時間通りに開始し、終了すること。時間厳守は軍隊において重要であり、聖書研究においても同様であるべきです。

c. 四つの基本指針を徹底する。この時点で確認すること。

実践演習（35 分）

1. 帰納的聖書研究の実演（10 分）
2. 約 6 名のグループを選出する。
3. 短い聖書の段落を使用する。
4. 帰納的聖書研究を実施する（20 分間）
5. 参加者を 6〜8 人ずつにグループ分けする。
6. 短い聖書箇所を割り当てる。
7. 各グループにリーダーを割り当てます。
8. 再集合の時間を伝える。
9. 聖書研究を評価する。各グループに尋ねる：（5 分間）

a. 研究は選択された箇所のみに限定されていましたか？

b. 参加を希望した全員が参加できましたか？

c. 誰かが研究を独占していませんでしたか？

d. 三つの質問全てに答えられたか？ e. 時間通りに終了しましたか？まとめ（5 分間）

1. 帰納的聖書研究は非常に効果的な形式です。指導力のある人なら誰でも主導でき、神学的な訓練を必要としません

。なぜなら聖霊が啓示を与え、理解をもたらすからです。

2. 定義：帰納的聖書研究とは、少人数グループが限定された聖書箇所を、非公式な発見型スタイルで学ぶことです。

3. 基本ガイドライン：

   a. 聖句に忠実に従う。

   b. 全員が参加する。 c. 誰も支配しない。

   d. 質問に答えなさい：

      i. それは何を意味するのか？

      ii. それは何を意味するのか？

      iii. 私にとって何を意味するのか？

4. リーダーの責務：

   a. 聖書研究の準備をする。

   b. 時間通りに開始・終了する。

   c. 基本ガイドラインを徹底する。

5. 評価。グループは次のことを行いましたか：

   a. 時間通りに開始・終了したか。

   b. 基本ガイドラインに従ったか。

教師への指示：この授業計画は 1 時間を想定しています。必要に応じて変更可能です。下線部分はワークシートの空欄の解答です

帰納的聖書研究 ワークシート

導入

多くの MCF の経験から、この少人数グループによる軍事的モデル、帰納的聖書研究は非常に効果的な形式であることが分かっています。指導能力のある者なら誰でも主導でき、神学的な訓練を必要としません。なぜなら聖霊が啓示を与え、理解をもたらすからです。

目的：本プレゼンテーション終了時までに、以下のことができるようになること：

1. _____
2. _____
3. _____

4. _____

プレゼンテーション

1. **定義：帰納的聖書研究とは：**

   _____
   _____
   _____

   a. b. c.

2. **基本ガイドライン：** a.

   _____

   b. _____
   c. _____
   d. _____
      i. _____
      ii. _____

3. **リーダーの責務：**

   _____
   _____
   _____

   a. b.

   c.

注：指導者は単なるファシリテーターです。聖霊が啓示を与え、理解をもたらします。

帰納的聖書研究の概要

1. **少人数グループによる軍事モデル、帰納的聖書研究は、大宣教命令を実行する上で非常に効果的な形式です。指導力のある者なら誰でも主導でき、神学的な訓練を必要としません。なぜなら聖霊が啓示を与え、理解を授けてくださるからです。**

2. **帰納的聖書研究とは、少人数グループが限定された聖書箇所を、非公式で発見的なスタイルで学ぶことです。**

3. **基本ガイドラインは以下の通りです：**

   a. **聖句に忠実に従う。**

   b. **全員が参加する。** c. **誰も支配しない。**

   d. **以下の質問に答える：**

      i. **本文は何を述べているか？ 内容**

ii. 何を意味しているか？ 発見

iii. 私にとって何を意味するのか？ 適用

4. リーダーは聖書研究の準備をし、時間通りに開始・終了し、基本ガイドラインを遵守し、事前に祈りながらレッスンを研究する。

5. 評価は、グループが以下の項目をどの程度達成したかを判断することから成る：

a. 時間通りに開始・終了すること。

b. 基本ガイドラインの遵守

対話的祈り

小グループ軍事モデル授業計画

導入（5 分間）

1. 聖書は祈りを教えています。
2. 私たちの祈りの経験は、静かなものから騒がしいものまで、即興的なものから典礼的なものまで様々です。祈りは個人的なものでありながら、同時に共同体（公的）のものでもあるべきです。一方が欠ければ、それは昼に夜がないようなものです。両者は互いに補い合う関係にあります。
3. 公の祈り、特に即興的な公の祈りは、堅苦しい言葉遣いや「聖なる声」を用いたり、曖昧な願い事をするため、新信者にとって悪い手本となる。
4. もちろん会話形式の祈りだけが唯一の祈り方ではない。しかし多くの国内 MCF では、会話形式の祈りが神の臨在への意識を高め、グループの活力と一致を強める効果があると実感している。また人々に祈り方を教える助けにもなる。
5. ほとんどの原則は、個人の祈りと少人数のグループの祈りの両方に適用できます。

目的：本プレゼンテーション終了時までに、以下のことができるようになること：

1. 会話的祈りを自身の言葉で定義する。
2. 4 つの基本指針を述べよ。
3. リーダーの責務を述べる。

プレゼンテーション（10 分間）

1. 定義。対話的祈りとは：
   a. 神（三位一体全体）と（単に語りかけるのではなく）対話すること。（マタイ 18:19-20）
   b. 少人数グループ（3〜6 名が最適）での対話。多くの場合、帰納的聖書研究グループで行われる。
   c. 通常の会話パターン、声のトーン、語彙を用いた、カジュアルな会話スタイルで話すこと。自分自身を指すときは「私」を、グループを指すときは「私たち」を使うこと。
2. 基本指針。これらは厳格な規則ではない。
   a. 主題に集中する。一つの主題、一人または一つの状況について、合意のもと（マタイ 18:9-20）で、その主題が完結するまで交互に祈り合う。参加者は聖霊の導きに従い新たな主題を提示してもよい。信仰にふさわしい、実現可能な願いを祈る。
   b. 望む者は誰でも参加できるが、強制されることはない。

c. 誰も支配しない。祈りは簡潔に、一文か短い段落で。好きなだけ祈って構わないが、再度祈る前に少なくとも一人に順番を譲ること。沈黙も構わない。

3. 次の三つの領域に気づき、応答しましょう：
   a. 私たちと共にいる神*への気づき*。
   b. *賛美*：神がどのようなお方であるか。
      I. *感謝*：御業に対して。
      II. *注意*：神が語られること。
      III. 神の御前にある*自分自身への自覚*。
   c. *告白*：私がしたこと、あるいはしなかったこと。
   d. *願い*：私が必要とするもの。
   e. 神の視点からの*他者への気づき*。
   f. *とりなし*：彼らが必要としているもの。
4. 指導者の責務。
   a. 祈りの時間を準備する。これは主に事務的な作業である。気楽で邪魔されない場所を見つける。時間を決める。参加者を招く。必要に応じて祈りの課題を収集するなど。
   b. 時間通りに開始・終了する。
   c. 必要に応じてガイドラインを徹底する。

注：リーダーは単なる進行役である。聖霊がグループを照らし導かれる。

まとめ（5 分間）

1. 対話的祈りは神の臨在への意識を高め、軍人キリスト教フェローシップの活力と一致を促進します。また、人々に祈り方を教える上でも非常に有益です。
2. 定義。対話的祈りとは、少人数のグループで、くだけた会話調で神と話すことです。
3. 基本的な指針は以下の通りです：
   a. 主題に集中する。b. 全員が参加する。
   c. 誰も支配しない
   d. 次の三つの領域に意識を向け、応答すること：i. 神：賛美、感謝、傾聴。ii. 自分自身：告白、願い。
   iii. 他者：とりなし。
4. リーダーの責務は：

a. 祈りの時間を準備する。

b. 時間通りに開始・終了する。

c. 基本ガイドラインを遵守させる。

教師への指示：

この授業計画は 20 分間を想定しており、その後小グループでの対話的祈りの時間を設けること。必要に応じて変更可能。

下線部分はワークシートの空欄の解答である。

対話的祈りワークシート

導入

対話的な祈りは神の臨在に対する意識を高め、軍人キリスト教フェローシップにおける活力と一致を促進します。また、人々が自らの言葉で祈る方法を学ぶ上でも非常に有益です。ほとんどの原則は個人祈祷にも小グループ祈祷にも適用可能です。

目的：本プレゼンテーション終了時までに、参加者の皆様は以下のことができるようになることを目指します：

1. _____
2. _____
3. _____

プレゼンテーション：

1. **定義：対話的祈りとは：**

   _____
   _____
   _____

   a. b. c.

2. **基本ガイドライン：** a.

   _____

   b. _____
   c. _____
   d. _____
      i. _____
      ii. _____
      iii. _____

3. **リーダーの責務：**

   _____
   _____
   _____

   a. b.

   c.

注：リーダーは単なる進行役です。聖霊がグループを照らし導かれます。

対話的祈りの概要

1. **対話的祈りは神の臨在への意識を高め、軍人キリスト教フェローシップに活力と一致をもたらします。また、人々が自分の言葉で祈る方法を学ぶ上でも非常に有益です。ほとんどの原則は個人祈祷にも小グループ祈祷にも適用できます。**

2. **会話的祈りとは、少人数グループで、くだけた会話形式で神と話すことです。**

3. **基本的な指針は以下の通りです：**

   a. **主題に集中する。**

   b. **全員が参加する。**

   c. **誰も支配しない。**

   d. **次の三つの領域に意識を向け、応答すること：** i. **神 – 賛美、感謝、傾聴**

   ii. **自分自身 – 告白、願い** iii. **他者 – とりなし。**

4. **リーダーは祈りの時間を準備し、時間通りに開始・終了し、基本的なガイドラインを徹底する。**

個人伝道

小グループ軍事モデル授業計画

導入：（5 分間、目的を含む）

1. キリストは「すべての国の人々を弟子としなさい」（マタイ 28:19）と命じられました。弟子訓練は、人がキリストに向き直る、あるいは伝道される時に始まります。
2. 人々をキリストへの救いの信仰へと導くことは、MCF の中核的な役割です。
3. 個人伝道は神と人の共同作業です。
4. キリストへと導く方法は数多く存在します。このレッスンではその原則を紹介し、三つの一般的な方法を説明します。
5. 祈りはすべての伝道において不可欠な要素です。

目的：この講義の終わりまでに、以下のことができるようになること：

1. 伝道とは何かを定義する。
2. 福音の四つの基本要素を述べる。
3. 自分の言葉で福音を説明する。
4. 信仰に至った自身の体験と、それ以降の証しを語る。
5. キリストを人生に迎え入れたいと願う人と共に祈ることができる。

プレゼンテーション：（25 分間）

1. 定義。伝道とは、以下のプロセスを含むものである：
   a. 十字架上のイエスの死によって与えられるキリスト教の永遠の命の希望について伝えること。
   b. キリストによる大宣教命令（マタイ 28:19）の一部は、私たちが「すべての国々の人々を弟子としなさい」と命じている。
   c. 伝道者と神との共同作業。伝道者が言葉を語るが、キリストを求める必要性を悟らせるのは聖霊である。
2. 福音の四つの基本要素は次の通りである：
   a. 創造における神の計画は、今も変わらず、人類と交わりを持つことである。
   b. 人類の不従順と堕落は、神の道ではなく自らの道を選んだ時に訪れた。
   c. キリストの贖いの犠牲こそが、私たちを神との交わりへと戻す唯一の道である。
   d. キリストを救い主として選び、私たちの生活に招き入れることで、神との交わりが回復される。

3. 福音を伝える。一対一の伝道は様々な方法で行え、それぞれが相手の状況に合わせて調整されねばならない。以下に示す三つの例はよく用いられる説明法だが、唯一の方法ではない。

a. 『四つの霊的法則』（CRU 制作『The Four Spiritual Laws』より抜粋）は、ほとんどの国で各国のナショナルディレクター、または CRU ミリタリー（info@crumilitary.org）、もしくはウェブサイト（www.4laws.com/laws/default/bilingual.html）から入手可能です。*利用規約は* http://www.4laws.com/laws/terms.html *の第 5 項をご参照ください。*

1. 第一の法則：神はあなたを愛し、あなたの人生に素晴らしい計画を持っておられます。（ヨハネ 3:16、10:10）

i. 律法 2. 人は罪深く神から離れているため、神の愛と人生の計画を知り体験することはできない。（ローマ 3:23、6:23）

ii. 律法 3. イエス・キリストは、人が神に到達できる唯一の道です。彼は私たちのために死にました。彼を通して、あなたは神を知り、あなたの人生に対する神の愛と計画を体験することができます。

彼は死に、死からよみがえりました。（ペテロの手紙一 3:18、使徒言行録 1:3、ヨハネ 14:6）

iii. 律法 4. 私たちはそれぞれ、救い主であり主であるイエス・キリストを受け入れなければなりません。そうして初めて、神が私たちの人生に与えてくださる愛と計画を知り、体験することができるのです。私たちは信仰によってキリストを受け入れなければなりません。（ヨハネ 1:12、エペソ 2:8,9、黙示録 3:20）

b. ローマ街道。ローマ人は曲がりくねった道ではなく、まっすぐな道を築いた。地形に応じて起伏はあったが、それでも目的地へ一直線に進んだ。 クリスチャンの良き人生もこれに似ています。旅路において、クリスチャンは人生の浮き沈みに直面しなければなりませんが、神は私たちに忍耐し、彼との永遠の命という目的地に到達するまでまっすぐ進むよう招いておられます。ローマ人への手紙の以下の節は、ローマ街道として知られる率直な方法で福音の物語を伝えています。

i. ローマ 3:23：すべての人は罪を犯し、神の栄光に届かない。

ii. ローマ 5:8: しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことによって、神は私たちに対するご自身の愛を明らかに示してくださいました。

iii. ローマ 6:23: 罪の報酬は死であるが、神からの賜物は、私たちの主イエス・キリストにある永遠のいのちである。

iv. ローマ人への手紙 10:9-10: もしあなたが口で「イエスは主である」と告白し、心で神がイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われる。

c. 神——創造主であり、支え主。

i. 神は世界を創造し、今もそれを支えておられる。神だけが、私たちの人生の中心となるにふさわしいお方である。（創世記 1:1; 2:1）

ii. 人間は神のようになることを選び、神を人生の中心から追い出しました（創世記 3 章）。しかし私たちは、効果的にも永遠にも自らの人生を支えることはできません。

iii. イエスは神から来て人間として生き、それゆえに神と人間との隔たりを埋める唯一の架け橋となられました。（ヨハネ 1:12）イエスは御言葉と御生涯によって、そして究極的には御自身の死と復活によって——復活した最初の者として——これを証明されました。

iv. 私たちが十字架の上でキリストが成し遂げてくださった御業を受け入れるとき、神が私たちの生活の中心にふさわしいお方であることを認めるのです。（ローマ 10:9-10）神が私たちの生活の中心におられるなら、私たちは効果的に、そして永遠に支えられ続けると信頼することができます。

4. 福音のメッセージを説明するために、あなた自身の物語を四つの部分に分けて語ってください：
   a. クリスチャンになる前の人生。
   b. イエス・キリストが必要だと気づいた経緯。
   c. イエスに人生を委ねた経緯。
   d. 今、それが私にとって何を意味するか。

5. イエス・キリストを人生に招き入れたい方への献身の祈り例：「*天の父なる神様、私の罪を悔い改めます。これまで口にした言葉、行った行い、抱いた思いの中で間違っていた全てのことを。 私はこれらのことから離れることを選びます。イエス様が私の罪を背負って死なれたと信じます。そうして私はあなたを知る自由を得たのです。今この時、イエス様、どうか聖霊で私を満たし、私の中に住んでください。私の人生を永遠に変えてください。アーメン。*」

実践演習（15 分間）

1. 上記の方法のいずれかを用いて、誰かに福音を伝え、自身の体験を語る様子を実演してください。質問者が投げかける可能性のある質問を 1〜2 つ用意した補助者を活用するのが最適です。

2. 演習を評価する。クラスに次の点を尋ねてください：
   a. 福音の四つの要素は明確に説明されましたか？
   b. 個人的な体験は適切な方法で語られましたか？
   c. 求道者に献身の祈りを捧げるよう招きましたか？ d. 質問は有益かつ誠実に扱われましたか？

まとめ（5 分間）

1. 個人伝道とは、人をイエス・キリストへの救いの信仰へと導く、神と人の共同作業である。

2. これは MCF メンバーの中核的な活動です。
3. 福音の 4 つの基本要素：
    a. 創造における神の計画。
    b. 人類の不従順と堕落。
    c. キリストの贖いの犠牲。
    d. キリストを選ぶこと。
4. 福音は様々な方法で伝えられる。
5. 自らの体験を語ることは、福音がいかに働くかを示す。
6. 献身の祈りは、求道者にとって確認の行為である。

教師への指示：この授業計画は休憩 10 分を含む 1 時間を想定しています。必要に応じて調整可能です。

聖書的倫理 – 正しいことと間違ったことをどう見分けるか*私は自分自身に仕えるのか、それとも神に仕えるのか？*

小グループ用モデル授業計画（*対象者に応じて変更可*）

導入（5 分間、目標を含む）

6. 倫理とは、私たちの行動や活動における振る舞いを規定する原則です。
7. クリスチャンにとって、聖書は倫理基準を提供します。
8. 私たちの倫理観は、あらゆる状況において正しい行動を選択する助けとなります。
9. 私たちの倫理観は、正しい行動を選択したことを知る助けとなります。
10. 私たちの倫理観は、たとえ誰にも知られなくても、正しい行動を取る手助けをしてくれます。

目的：本プレゼンテーション終了時までに、以下のことができるようになること：

5. あらゆる状況において、善悪を判断する方法を説明できる。
6. 正しい行動を取る動機を説明できる。

用語の定義（5 分間）：

1. 信念：何か、概念、または人物について真実であると信じる前提や確信。
2. 価値観：人や概念、物の価値や重要性に関する属性。
3. 規範：通常、合意された信念や価値観に基づく規則や法であり、集団の成員が調和して生きるために従うものである。

4. 人格：人の内面の強さを表し、価値観と行動を結びつける要素。人格ある兵士は、危険や状況にかかわらず、正しいと信じることを実行する。

5. 道徳：適切な行動に関する個人の信念、価値観、規範を説明する。

6. 倫理的：キリスト教の信念、価値観、規範に従って正しく行動すること。特に職業上の基準において。

7. 倫理的ジレンマ：個人の道徳観とキリスト教倫理が衝突する状態。聖書に則り最大の善をもたらす解決が求められる。

8. 職業倫理：その職業が保持し、その文化に組み込まれた価値観、信念、理想、原則の集合体であり、その構成員に教えられ、内面化され、実践されることで、国家の防衛と奉仕における倫理的行動を導くものである。

9. 三つの誘惑：キリスト教徒が直面する三つの共通の誘惑。受け入れられるためなら何でもすること、ナンバーワンになるためなら何でもすること、そして権力の誇りと乱用である。

プレゼンテーション（10 分間）：道徳的判断を下すための基本要素は三つある：

1. 理性：与えられた問題において、自らの行動選択を理解し正当化するために最善の知的努力を用いること。

例：誰にも害を与えない限り、キャリアを促進するために嘘をつくことが許容されるとの推論は、聖書的ではない。

2. 経験：特定の課題における行動選択を理解し正当化するために、自身の個人的経験を用いること。

例：「特に指揮官が『ゼロ欠陥』政策を要求している状況では『誰もが嘘をつく』という自身の経験から、嘘は時として許容されると判断すること」。

7. 宗教的真理：特定の課題における行動選択を理解し正当化するために、自身の宗教的信念への献身を用いること。

例：たとえ他人が何度嘘をついても見逃されても、嘘は間違っていると決断する。なぜなら聖書の真理があなたを責めるからである。コロサイ人への手紙 3 章 9 節：*「互いに偽りを言ってはならない。あなたがたは、古い人とその行いを脱ぎ捨てたのだから」*と、またエペソ人への手紙 6 章 14 節「*だから、真理の帯を腰に締め、義の胸当てを着け、…」*。

実践演習（35 分）

1. 倫理的なリーダーとは何か。（10 分）

a. 状況が倫理的対応を必要としていると、どうして分かるのか——本当の問いは何だろうか？ b. あなたの応答を支持する聖句は何か。（例）

(1) コリント人への手紙第一 16:13 – 「*目を覚ましなさい。信仰に堅く立ちなさい。勇気ある者となりなさい。強くあれ。*」

(2) エペソ人への手紙 6:14 – 「*だから、真実の帯を腰に締め、義の胸当てを着け、*...

(3) ローマ人への手紙 9:1 – 「*私はキリストにあって真実を語る。偽りはない。私の良心が聖霊によってそれを証ししている。*」

2. 添付リストからいくつかの事例研究を確認してください。（20 分）

   a. その人物は倫理的なリーダーであったか。なぜか？

   b. よりキリストに似た倫理的リーダーになるにはどうすればよいですか？

3. 演習を評価する。グループに質問する：（5 分間）

   a. 全員が倫理的・霊的リーダーシップを理解していますか？

   b. 全員が参加しましたか？

   c. 議論を独占した人はいましたか？

   d. この学びは倫理的リーダーシップの誘惑を理解するのに役立ちましたか？まとめ（5 分間）

1. 倫理は霊的成熟の中核をなす要素です。
2. 私たちの倫理観は行動と意思決定を導く
3. 倫理的な指導者は誘惑に直面する
4. この状況でキリストはどうなさるだろうか？

暗唱聖句：ローマ人への手紙 12 章 1-2 節「*ですから、兄弟たち、神のあわれみによって、あなたがたの体を生ける聖なる供え物としてささげなさい。これが、あなたがたの霊的な礼拝です。2. この世の風潮に同調せず、むしろ、心を新たにすることによって変えられなさい。 そうすれば、神の御心、すなわち、善であり、神に喜ばれ、完全な御心を、あなたがたは、見分け、認めることができるようになる。*」

教師用指示：この授業計画は 1 時間を想定しています。必要に応じて変更可能です。事例研究は AMCF 周辺の実際の経験に基づいています。複数の解答が正しい場合もあります。生徒には授業内容に基づいて解答を説明させましょう。下線部はワークシート（使用する場合）の空欄への解答です。

事例研究：

ある活動の責任者に任命されたあなたは、前任者が業務を遂行していたものの、関連規制に準拠していない方法を取っていたことを発見しました。あなたは：

1. 従来通りの方法だから現状維持する？
2. 全てを「規則通り」に実行するよう要求するか？
3. なぜその方法で行われているのかを調査し、規制内で任務を達成するより良い方法があるか判断する？
4. 現状を維持しつつ、任務をより効果的に遂行するための規制改正を提案するか？

あなたが規制権限を持つ組織から、前任者が受け入れたという理由で無料会員資格を提示された。あなたの職業倫理規定ではそのような贈与は禁止されている。あなたは：

1. 前任者がそうしていたからという理由で承諾するのか？
2. 利益相反が生じるため、承諾しない？
3. 組織規定に違反するため、辞退する？

あなたの指揮下にあるグループが、部署の女性メンバーについて失礼な発言をしている。あなたは：

1. その女性メンバーが不在だからと、その会話を放置するか？
2. 後日の機会にグループリーダーを個別に呼び出して指導する？
3. 同僚の軍人への不敬行為として、公に注意する？

あなたは任務において、金銭と物資の管理を任されています。交代時には現職者が金銭と物資を持ち帰るという慣習があります。任務を引き継ぐ番が来た時、あなたは：

1. 慣習に従い、離任時に金銭と物資を私的に持ち出す
2. 後任者に金銭と物資を引き継ぐ。
3. 上司に指示を求めるあなたは部隊に配備され、再配備に備えて自部隊から武器と弾薬を回収するよう命じられた。ある部隊が武器に関する必要な書類を提出していないが、上官は「再配備中に書類を取得するのは複雑すぎる」として規則を無視するよう指示した。あなたは：

1. 規則を無視する命令に従う。
2. 自ら調査を行い、全ての武器・弾薬の所在を確認する。
3. 調査で発見した不一致を報告するため、部隊が帰還するまで待つ。

部隊の指揮を執ることになり、部下に対して自分が倫理的な精神的指導者であることを伝えたい。あなたは：

1. 会議を開いて、物事をどう進めたいか発表するのか？

2. **状況が発生した際に倫理的に対処し、部隊が気づくことを期待するのか？**
3. **部隊のパフォーマンスを評価する時間をかけ、安全と任務遂行が最優先であるという「指揮官の意図」を説明し、部隊の任務遂行を妨げない限り規則は遵守すべき理由、そして必要に応じてそのような規則の変更に取り組むことを伝える。**

善悪を判断する方法 ワークシート

はじめに：

倫理とは：

_____ **聖書**

は提供する： _____

目的：本プレゼンテーション終了時までに、以下のことができるようになること：

5. _____
6. _____

用語の定義：

信念： _____

倫理的： _____

倫理的ジレンマ： _____

提示：

4. **道徳的決断を下すための三つの構成要素：**

_____
_____
_____

a. b. c. **実践演習：**

1. **あなたがサービス提供中に遭遇した倫理的ジレンマについて説明してください：**

_____

_____

2. **この倫理研修がどのように解決に役立ったか説明してください：**

注：指導者は単なるファシリテーターに過ぎません。聖霊が啓示を与え、理解をもたらします。

第 3 章

主要支援組織（PSOs）

1. 3 つの PSO はいずれも、あらゆる国の軍人・軍属にイエス・キリストの福音を伝えるという AMCF の使命、そして世界各国で成熟し効果的な MCF が確立されることを強く信じています。PSO は AMCF の主要支援組織として重要な役割を担っています。文化や経験は異なるものの、PSO は神の御国を前進させるあらゆる事柄において「*イエス・キリストにあってすべてが一つとなる」ことを*実践することに尽力しています。
   a. キリスト教会議・教育・奉仕協会（ACCTS）は米国コロラド州コロラドスプリングスに本部を置く。
   b. ミリタリー・ミニストリーズ・インターナショナル（MMI）は英国ハンプシャー州アルダーショットに本部を置く。

      ハンプシャー州、英国
   c. ミッション支援組織（MSO）は、大韓民国（ROK）ソウルに拠点を置いています。
2. 各 PSO の説明は以下の通りです。説明をお読みになる際、PSO ごとに価値観や原則の表現が若干異なる場合もありますが、すべてが神を賛美するという一点で一致していることにご留意ください。

MCF 向け PSO 支援

MCFS 向け PSO 支援

1. 以下の PSO 能力一覧表は、MCF が「祈りと計画」プロセスを用いて奉仕活動を計画する際に、どのような支援が利用可能かを確認するための参考資料です。

2. この表には、単独の PSO による支援、あるいは CATT（51 ページ参照）において協力して奉仕する 2 つ以上の PSO による支援の可能性が記載されています。祈りは協会全レベルにおける AMCF 活動の主要な要素であるため、「祈りと計画（P&P）プロセス」（13 ページ参照）が全ての取り組みの基盤となります。

これにより、指導者や支援要請者は、個人や団体の考えではなく、神が望まれることに焦点を合わせ続けることができます。聖霊に導かれるとき、神に栄光が帰されるのです。

ACCTS	MMI	MSO	MCF が利用できる支援（*完全なリストではありません*）
はい	はい	はい	士官候補生・若手将校リーダーシップ研修

はい	はい	はい	牧師養成：導入・初期・継続研修（対面形式）対話形式による継続
はい	はい	はい	軍事キリスト教倫理会議（MCF および/または AMCF 副会長の要請に基づく地域別・地方別開催）
はい	はい	はい	ワン PSO または CATT のスタッフメンバー。通常、訓練チームは MCF または AMCF の地域拠点のいずれかに赴く。
	はい		「ユーロセミナー」
はい		はい	英語キャンプ
はい		はい	PSO の国における外国の軍事学生
		はい	軍事伝道観察プログラム（MEO）
		はい	コンピュータープログラム
		はい	テコンドー（韓国武術）プログラム
		はい	医療サービスプログラム
はい	はい	はい	キリスト教指導者ワークショップ
はい	はい		結婚と家族セミナー
はい	はい	はい	管理
はい	はい	はい	弟子訓練コース

表 3.1. PSO から利用可能な MCF 支援マトリックス

合同支援・訓練チーム（CATT）

CATT の計画、組織化、実施に関する原則

1. PSO が支援要請を受けた際には、祈りと計画のプロセスにおいて CATT の編成を検討すべきである。単一の PSO が訓練に最適である状況も明らかにあるが、神の導きと信じる場合には CATT を運用すべきである

。

2. 支援要請を受けた PSO が指導・調整責任を担う。通常は地域・機能・国家レベルの主導 PSO が該当し、国内イベントの場合は開催国の PSO が担う。

3. 各チームメンバーには、任務、任務内容、スケジュール、参加者、装備、および管理支援について明確な指示を与えなければならない。

4. 祈りと計画は、当初は電子メール、ビデオ会議、または電話で実施でき、特定のイベントのために指名された訓練チームメンバーのために祈る支援グループが必要に応じて各国で形成される。イベント開始の 1〜2 日前に全チームメンバーが到着することで、祈りと主の導きによる計画の調整が可能となる。

5. 原則として、各 PSO またはその他の支援組織は、自チームのメンバーの旅費・宿泊費を負担する。

6. 主導 PSO は、適切と判断される場合、非 PSO の CATT 参加を招請することが可能です。

CATT の利点

7. このようなチームによって提供される効果的なプログラムは、参加するすべての人々に以下の利点をもたらします：

8. 異なる文化背景を持つキリストのようなリーダーで構成されるチームは、より効果的な支援と技能の共有を提供し、教えを受ける人々との信頼関係を深めることができます。

9. 調整と協力により、参加者全員の交わりとチームワークが強化されます。

10. 人的資源、時間、物資が神の栄光のために効果的に活用されます。

11. 時間の経過とともに、こうしたチームの仕事は各 PSO の知識、文化的洞察力、霊的知恵を強化し深めます。

12. 最後に、こうしたチームは、あらゆる国、部族、言語の信徒が真に*「キリスト・イエスにあって、みな一つ」*であるという事実を、目に見える生きた証しとして示します（ガラテヤ 3:28）。

13. 継続中の CATT プログラムには、MEO（MSO）、および欧州軍事キリスト教指導者会議が含まれます。

キリスト教会議・教育・奉仕協会

（ACCTS）

私たちの使命声明

世界中のキリスト教軍事指導者と共同体を確立し、装備し

、励ますこと。

私たちのコアバリュー

ACCTS の諸事業は、2006 年に理事会が採択した中核的価値観に基づき実施され、職員はこれに導かれています：

a. 私たちは聖書に基づいています
b. 私たちは御霊に導かれます
c. 祈りを中心とする
d. 私たちは人々に焦点を当てます

私たちの奉仕活動の焦点

私たちの奉仕は軍関係者に焦点を当て、世界中の軍人クリスチャンが霊的に成熟したキリスト教指導者となるよう励ましています。

ACCTS は AMCF の主要支援組織（PSO）です。

私たちの奉仕の文脈

ACCTS は三つの文脈で奉仕します：協会として、共通の目標に向けて個人としてもボランティアの共同体としても奉仕します；クリスチャンの家族として、互いの試練と勝利を分かち合い、祈りで支え合い、定期的にクリスチャンの交わりに集まります；組織として、非営利奉仕団体向けに定められた米国税制ガイドラインの範囲内で奉仕します。

スタッフについて：

1. 主に退役軍人夫婦で構成され、幅広い軍事経験を有し、奉仕活動の資金の大半を自ら調達しています
2. 多くの宣教師のように奉仕対象者の地域に居住せず、奉仕を行う国々を巡回する巡回奉仕者です。
3. 御霊に導かれて – ACCTS に加盟するために必要な前提条件となる訓練や経験はなく、ただ主が内住される聖霊を通して与えられる召しがあるだけです。

私たちの奉仕へのアプローチは：

1. ACCTS プレイブックに基づき、「同行者」として長期的な関係を築き、軍人クリスチャン指導者や共同体を霊的成熟へと強め励ますこと。
2. 祈りと計画の手法に依拠し、神が働かれている場所を見極め、その方向へ動き始める時を判断し、その場所で神が私たちに定められた計画に従う方法を明らかにします。
3. 帰納的聖書研究、対話的祈り、個人的証言を中心とします。
4. 現地の働き手と指導者を特定し、投資し、育成し、彼らが自身の奉仕の中で福音を分かち合

い、自国へのキリスト教伝道を行うようにします

。

5. 進捗を評価し、未完了の事柄を完成させる。
6. 軍人クリスチャンと共に歩み、奉仕のために彼らを装備し弟子として育てる。
7. 各国において、社会的・文化的に関連性のある軍人クリスチャン共同体を設立し、装備し、励まします。
8. 奉仕対象者と共に生活し、恵みを分かち合う

9. **完全に非教派的でありながら強く福音主義的で**

ある。なぜなら「*キリスト・イエスにあってすべては一つ*」と宣言する者たちと共に行動するからである。

私たちの奉仕のビジョンは：

全世界の軍人全員が福音を聞き、軍服を着た者によって弟子として育てられ、世界のあらゆる国に軍人クリスチャン・フェローシップが存在するようになること。

私たちの奉仕方法論：

1. 会議：要請に応じて、ACCTS スタッフは AMCF 副会長および MCF リーダーが会議を計画するのを支援し、必要に応じて多くの会議に参加します。
2. 教育活動：要請に応じて、ACCTS スタッフは AMCF 会議やその他のイベントにおいて正式な場で教鞭を執ります。しかし歴史的に見て、国際的な軍人クリスチャンを非公式な指導やメンタリングのために集める「交流」こそが - が私たちの主要な教育方法でした。1986 年以降、交流イベントでは数百名の国際的な軍人クリスチャン指導者を対象に、祈り、伝道、弟子訓練、開拓伝道などの分野で訓練を行ってきました。
3. 奉仕：ACCTS スタッフは、AMCF 副会長、軍人クリスチャン、軍牧師、軍人クリスチャン・フェローシップ、その他の軍関連ミニストリーに対し、以下の方法で奉仕します：a. AMCF 会長および副会長への事務支援（能力範囲内で）。ACCTS は可能な限りこの奉仕を行いますが、ACCTS の主要な使命ではありません。
   b. 要請があり、かつ主要な使命（上記の使命声明を参照）に支障をきたさない範囲で、奉仕プロジェクトと宣教旅行を組み合わせること。
   c. 他のパラチャーチ団体、教会、軍牧師との奉仕活動における連携。

当団体のロゴ：

ACCTS のロゴは、開かれた聖書が地球の上に掲げられた姿を表し、キリストが世界にとって*「道であり、真理であり、命である」*（ヨハネ 14:6）ことを示しています。白地に*「accts」*の文字の下に配された緑色は*「刈り入れの時期を迎えた畑」*（ヨハネ 4:35）を表し、ACCTS が使徒言行録 1:8 の指示に従い世界へ福音宣教に赴くことを示しています。このロゴは究極的に、神の「み言葉、御業、世界」が一つとなる（ヨハネ 17 章）という神の御心を表現するものです。

ACCTS トレーニング＆支援：MCFS および AMCF 副会長向け

ACCTS 研修プログラムの一部リスト：

1. 国際交流プログラムは、地域 AMCF 会議と連携して ACCTS が主催する場合があります。
2. インタラクション - ロッキーマウンテン・ハイ（IRMH）は、米国将校キリスト教友愛会（OCF）と連携し、若手将校、士官候補生、海軍士官候補生、その他の若手リーダーを対象としたキリスト教リーダーシップ研修を提供します。
    a. IRMH では、リーダーシップ訓練やその他のミニストリーの基礎を、アウトドア・アドベンチャー活動や米コロラド州の軍事基地

       ・名所訪問と統合して行います。
    b. 参加者は、伝道、弟子訓練、リーダーシップのスキルを身につけながら、軍隊や MCF（キリスト教軍人会）に帰還する際に備え、人生の戦略的目標を構築します

       。
    c. 可能な限り、参加者は米軍のキリスト教指導者とその家族の家に滞在します。
3. 国際牧師養成プログラムは、牧師として奉仕している、あるいは将来牧師になる可能性のある国際的な軍関係者を米国に招き、米国軍牧師や他の軍クリスチャンと交流する機会を提供します。軍牧師職の原則、宣教地としての軍隊、帰納的聖書研究、対話的祈り、奉仕的リーダーシップの原則について指導が行われます。

   参加者は、部隊員、指揮官、結婚カウンセリング、家族問題、病人、入院者に対する様々なチャプレン・ミニストリーの手法に触れる。
4. 聖書に基づく軍事倫理研修は要請に応じて実施され、教材は ACCTS ウェブサイトで入手可能です。
5. ACCTS 探検プログラムは、米国および一部の国際的な士官候補生・海軍士官候補生を対象に、春季・夏季の海外訪問を実施しています。参加者は他国の

   MCF メンバーを訪問し激励するとともに、訪問国の文化や人々について学び、国際的な軍事奉仕活動のビジョンを共有し、他国の軍隊に所属する同世代との生涯にわたる関係を築きます。
6. オンライン誌『信仰と戦争ジャーナル』は、神・人間

・戦争、国家安全保障、リーダーシップなどのテーマに関する記事を掲載し、治安部隊を率いる者たちが信仰を判断・決断・行動に統合するよう促す。

ACCTS 事務局：電話: +1 303-985-8808 FAX: +1 303-986-4710

ACCTS **に関する詳細情報、または** ACCTS **スタッフへの連絡は、下記** ACCTS **事務局までお問い合わせください：メール：**accts@accts.org **ウェブサイト：**http://www.accts.org

私書箱 27239

Denver, CO 80227-0239Facebook **と** X **でフォローしてください。**

ミリタリー・ミニストリーズ・インターナショナル（MMI）

ミッション

1. MMI は、世界中の軍隊に所属するクリスチャンがイエス・キリストに従うことを支援します。

概要

2. MMI は、ヨーロッパ、アフリカ、南アジア、中東諸国の軍隊に所属するキリスト教徒の間で活動しています。MMI は英国に本部を置き、現地スタッフは全員、様々な国の軍隊での勤務経験を有しています。これは軍事キリスト教友愛会連合（AMCF）を支える主要な 3 つの支援組織の一つです。MMI スタッフは会議やセミナーの運営を支援し、スタッフは MMI 活動地域内の各国の MCF や個々のクリスチャンと会うために出張します。私たちは以下の価値観に沿って活動を行うよう努めています：

a. キリスト中心（エペソ 3:20-21）
b. 祈りに導かれる（ピリピ 4:6）；
c. しもべの心を持つ（ピリピ 2:5-8）；
d. 関係性を重視（ヨハネ 14:12-13）；
e. 教派を超えた（ガラテヤ 3:28）；
f. 開拓的、冒険的（使徒行伝 1:8）；g. 卓越への献身（ピリピ 2:14-15）。

ビジョン・ステートメント

3. もしすべての軍人クリスチャンに共に立つ者がいたら、神は何をなさるだろうか？

戦略

4. 関係構築。MMI スタッフは、世界中の軍隊に所属するクリスチャンを訪問し、祈り、励ますことで関係を築きます。

5. 地域会議。 MMI は地域別 AMCF 会議の運営を支援します。これには、イベントの計画立案とリソース確保の支援、講演者の選定・手配に関する助言、参加者の支援、およびイベント終了後の地域内フォローアップが含まれます。具体例としては、2008 年にナイロビで開催された汎アフリカ AMCF 会議、2008 年のインドネシア MCF 初の会議、2009 年英国開催の AMCF 欧州会議、2012 年南部アフリカ地域会議、2012 年南アジア会議、2014 年 AMCF グローバル交流会、2018 年ナイジェリア・アブジャ開催の汎アフリカ会議、2021 年マダガスカル開催のアフリカ南部地域会議、2023 年レバノン開催の中東地域会議などがあります。

6. リーダーシップ・リトリート及びイベント。MMI は、キリスト教徒の軍人リーダーによる小規模な集会の支援・運営を行い、交わりを深め、信仰と軍務に関する共通課題について議論し、力を新たにし主に待ち望む機会を提供しています。例としては、長年ドイツで開催されている年次欧州キリスト教軍人リーダー会

議や、キプロスで開催される中東リトリートが挙げられます。

7. 倫理とリーダーシップセミナー。MMI はキリスト教軍事倫理とリーダーシップに関する「ユーロセミナー」を複数回開催。会議と同様に、主催団体への支援を伴う。

8. 士官候補生・若手指導者向けイベント。会議やセミナーよりも活動的な内容で、スキー、セーリング、乗馬、リーダーシップ課題、スポーツなどを含みます。活動、講演、討論、聖書研究、祈りを組み合わせたプログラムが組まれます。これらすべての焦点は、軍人としての職業においてキリスト教信仰をどう適用し、人格に基づくリーダーシップをどう育成するかです。参加する若いクリスチャンから高く評価されています。

9. トピック別イベント。 MMI スタッフは、キリスト教的奉仕とキリスト教的結婚に関する教育イベントの指導・運営支援を行ってきました。

10. 出版物。MMI ニュースと祈りの要約は年 3 回発行され、印刷版とウェブサイトの両方で入手可能です。また、弟子訓練コース『聖書的奉仕』を出版しており、当ウェブサイト www.mmi.org.uk で入手できます。

11. **ロゴ：**MMI のロゴは次のとおりです：

12. 連絡先情報：

ウェブサイト： www.mmi.org.uk メールアドレス：headoffice@mmi.org.uk 電話: +44 (0) 1252 311222 住所 : ハブロック・ハウス

バラック・ロード

アルダーショット、GU11 3NP イギリス

Facebook **でもフォローしてください**

MMI トレーニング／MCFS および AMCF VPS 向け支援

はじめにウェブサイト：http://www.mmi.org.uk スカイプ：

mmi.office

1. このトレーニング一覧は、セミナーや会議の資料に基づいており、MMI がトレーニングや指導を手配できる主題を示しています。MMI のスタッフ全員がすべての主題をカバーできるわけではありませんが、講師/トレーナーを手配して指導を行うことが可能です。
2. ほとんどのテーマについて資料が用意されており、ご要望に応じて提供可能です。一部のテーマについては録音テープも用意されており、該当するものはその旨を明記しています。

主題／トピック

1. 倫理
2. 家庭生活 – 結婚、子育て、財務管理
3. 霊的成長

トレーニング形式

1. 会議
2. セミナー
3. 弟子訓練コース
4. 活動ベース

トレーナー

1. 地域
2. AMCF 副社長
3. MMI スタッフ
4. チャプレン
5. 他の PSO と共同で

連絡先

このようなイベントの運営に関するさらなる助言や支援が必要な場合は、MMI 事務局までご連絡ください：

ハヴェロック・ハウス、バラック・ロード、オルダーショット、ハンプシャー、GU11 3NP

UNITED KINGDOM Tel: +44 (0)

1252 311222

E **メール：**headoffice@mmi.org.uk

MMI 職員一覧及び担当業務

MMI オフィス

Havelock House, Barrack Road, Aldershot, Hants,

GU11 3NP UNITED KINGDOM **電話：**

+44 (0) 1252 311222

E **メール：**headofoffice@mmi.org.uk **ウェブサイト**

：http://www.mmi.org.ukSkype：mmi.office

最高経営責任者兼チームリーダーリチャード・

ジャイルズ中佐＆トレーシー・ MMI **オフィス**

Email: **ce-tl@mmi.org.uk**

執行秘書 デイビス、パム＆マッ

ト MMI **オフィス**

Email: headoffice@mmi.org.uk

財務担当秘書アラン・マレ

ー

Email: alandotmurray@gmail.com

広報担当ミラード夫人 スー／クリス

MMI **事務所**

メール: comms@mmi.org.uk

財務・総務部長

エドワーズ、ケイティ夫人 MMI **事務**

所

メール: it@mmi.org.uk

祈りコーディネーターミラード夫人 スー

／クリスメール: prayer@mmi.org.uk

ヨーロッパ地域チームリーダー – ヨーロッパ ス

エフスキ、グ

ロズダン牧師/スラヴィカ ブルガリア

電話：+359-896685672

メール: europe@mmi.org.uk

地域スタッフ – ヨーロッパウ

ーストラー大尉（退役海軍大尉）

ニールス／イザベル オランダ電

話： +31 6 13736520

メール： niels_wouldstra@hotmail.com

ヒバート＝ヒングストン、少佐（退役）マーク／ルシンダ

電話：+44 (0) 7906 127760**（携帯電話）**

E **メール：**hh@mmi.org.uk

マムーロス、ヴァシリス ギリシャ

電話：+30 6974000025

E **メール：** mamoulos@gmail.com

アフリカ地域チームリーダー – 東部・南部アフリ

カムポンディ、牧師 WO1**（退役）マックス電話**: +44

(0) 7832 974694

メール: max@mmi.org.uk

地域チームリーダー - フランス語圏アフリカ ***欠員***

中

地域スタッフ – アフリカ 西アフリ

カ AMPONSAH, Eddy/Nicole **電話**: +44 (0)

7869 140642

メール： eddy@mmi.org.uk ポルトガル語圏アフ

PORTUGAL
リカフェレイレ、フェルナンド 電話：+351

918119144（携帯電話）

メール: fernando@mmi.org.uk

東・南部アフリカマイヤー・ヘルマン大佐（退役

）／エリカ・マイヤードイツ

電話: +49 (0) 15233988299 メー

ル： Hermann@mmi.org.uk

南アジア地域チームリーダ

ー – 南アジア

パディ・ヒューズ中佐（退役）/アン・ヒューズ電話:

+44

(0) 78961 130404 (携帯電話)メール:
southasia@mmi.org.uk

中東地域チームリーダー – 中東メリヨン

海軍大尉（退役）リチャード／ロザリンド

電話: +44 (0) 7799 747035 メー

ル： middleeast@mmi.org.uk

ミッション支援組織（MSO）

「それゆえ、行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい……」（マタイによる福音書 28:19）

はじめに

1. ミッション支援機構（MSO）は、AMCF を支援するために設立された組織です。事務所は韓国・ソウルの中央軍礼拝堂内にあります。MSO は、現役・予備役・退役軍人、および韓国軍で現役または退役した軍属のキリスト教徒ボランティアで構成されています。メンバーの配偶者も MSO 活動への参加を奨励されています。 MSO はまた、国内および海外の韓国民間教会コミュニティと、軍事宣教のための独特の関係を築いています。

MSO は、教派を超えた、非政府、非政治的、独立した組織です。

ミッション

2. MSO の使命は、世界各国の軍人・軍属にイエス・キリストの福音を伝えることに貢献することです。この使命は、軍事キリスト教友愛会連合（AMCF）の活動を支援し、関連する宣教団体と協力することで果たされます。

目標

3. MSO の目標は、主の大宣教命令（マタイ 28:19）の達成に貢献することです。この目的は、あらゆる国の軍隊における MCF（軍人キリスト教友愛会）の設立と、既に設立された MCF の発展を追求する AMCF を支援し協力することで達成されます。既に設立された MCF の発展を支援し、協力することにあります。

ミニストリーの機能と姿勢

4. 機能。MSO は、AMCF の 6 つの主要機能、すなわち、祈り、働きかけ、集会、コミュニケーション、教えと励まし、協力を行うことにより、その使命と目標を達成します。

5. ミニストリーの姿勢。MSO は、以下の原則に従ってミニストリーを遂行する。

   a. 使命と目標に忠実であるようあらゆる努力を払い、関係組織と「善のために働く（ローマ 8:28）」よう、最善を尽くす。

   b. 主の福音の奉仕の僕として、常に謙遜な態度で奉仕し、助け、支え続ける。

   c. 各 MCF が自律し、自らの成熟に責任を持つよう支援・協力し、国内 MCF の忠実な助け手としての役割を果たす。

   d. 祈りと計画（P&P）のプロセスを一貫して活用する。

   e. 世界的な軍隊伝道を含む、韓国の教会や宣教団体による軍隊宣教に積極的に協力する。

f. AMCF リファレンスハンドブックに定められた目標と指針を尊重し、ACCTS、MMI、その他の適切な組織と緊密な連携と協力関係を維持する。

ACCTS、MMI、**およびその他の適切な組織と緊密な**

連絡と協力を維持する

。

g. 教派を超えた組織として、MSO に参加し、そのスポンサーや支援を行っているキリスト教団体や教会と緊密な連携と協力関係を維持する。

活動方法

6. 祈りと礼拝

a. AMCF のメンバーのために祈り、彼らの祈りの奉仕を助け、支える。

b. AMCF 役員の奉仕のために祈る。

c. 共通の祈りの課題をまとめ、関係組織に配布する。

d. とりなしの祈りを組織し活性化するための支援を提供します。

e. 世界的な祈りのネットワークの組織化と活性化に貢献する。

7. 伝道と訪問

a. AMCF 職員の対外連携活動を支援し、必要に応じて軍事宣教師の派遣を支援する。

b. MSO の能力範囲内で、AMCF 役員のアウトリーチ活動を支援する。

c. 宣教師の訪問を支援し、MCF の設立および強化を図る。

d. アウトリーチ活動に関する情報を周知し、MSO の能力範囲内で必要に応じて支援を提供する。

8. 会議と会議

a. 世界大会、地域大会、サブ地域大会等の開催にあたり、各国の MCF を支援・補佐する。地域会議、サブ地域会議などの開催を支援・サポートする。

b. 会議の主催および参加に関する事項について協力する。

c. 他団体が開催する会議の支援のための調整体制を維持する。

d. 必要に応じて広報支援を行う。

9. コミュニケーションと交わり

a. AMCF 役員間、各国の MCF 間、および各国の MCF メンバー間のコミュニケーションと親睦の促進を支援、サポートする。 b. AMCF ニュースレターの発行と配布を支援し

、論文を通じてコミュニケーションと交わりの促進に貢献する。

c. インターネットシステムを含む利用可能な通信手段を通じて、世界中の軍人クリスチャン間のコミュニケーションと交流を奨励し支援する。

d. 翻訳、通訳、特別伝令サービス、宿泊施設手配など、利用可能なサービスを提供する。

10. 教え励ます。

a. 各国の MCF が聖書の真理を教え、敬虔なクリスチャン生活を送るよう支援し、霊的な経験を分かち合うことを助ける。

b. 伝道と育成のための教材及び関連文献の探索、開発、翻訳、配布を支援し、サポートする。

c. 軍事倫理、軍事リーダーシップ、軍事奉仕などに関する交流会やセミナーの開催・参加を支援し、サポートする。

d. **教師の育成と装備を支援する。**

e. 韓国に派遣・訪問・留学する外国軍人への聖書の真理の教えを補助する活動に参加する。

f. 軍事武官として派遣される韓国軍関係者、または海外に留学する韓国人学生を支援・サポートする。

g. MSO が提供する研修および教育については、65 ページをご覧ください。

11. 協力と支援

a. ACCTS、MMI、各国の MCF、およびその他の関連宣教団体と協力する。

b. 情報交換と相互協力を円滑に行うため、ACCTS および MMI と緊密な連絡を維持する。

c. 国内外のキリスト教軍事宣教フェローシップ（FCMM）の活動に協力する。

d. 国内外における MSO の活動を支援・支援する軍事および民間の宣教団体と協力し、必要な情報を交換する。

e. 資金援助のための活動に協力する。

組織

12. 主要組織

a. MSO は、事務局、世界宣教局、教育訓練局、国内事業局、監査室で構成されています。事務局は、事務総長、世界宣教局長、教育訓練局長、運営部長、秘書 1 名で構成される。

b. その他の支援としては、執行顧問、顧問牧師、特別委員会、運営協力委員会、諮問委員会、協力会員などが挙げられます。

c. 事務局と各部門は執行機関であり、それぞれの役割を担っています。

d. MSO に加入するメンバーは全員、忠実なキリスト教徒のボランティアであるため、管理事務所の数人の常勤職員を除き、報酬や給与は支払われていません。

13. MSO の人事組織とその責任は、MSO 事務局に記録されています。

14. ACCTS、MMI、およびその他の国際組織との関係 a. MSO は ACCTS および MMI と提携し、その他の関連国際機関とも協力しています。

15. MSO は以下の韓国軍・民間キリスト教団体と支援・協力関係を維持しています：

a. KMCF（韓国軍人キリスト教友愛会）。

b. KVMCF（韓国退役軍人キリスト教友愛会）。

c. MEAK（韓国軍福音協会）。

d. 軍伝道のための民間教会と宣教団体。

財政支援

16. MSO は、会員会費、関心を持つ個人や団体からの寄付金や献金によって運営されています。MSO の方針として、これらの特定の個人、教派、または公的機関への謝意を示す目的で公表することはありません。

ロゴ

17. MSO のロゴは、主の大宣教命令*「だから、行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい」*（マタイ 28:19）を遂行するという究極の使命を表しています。

a. 文字「M」は「山々」を象徴しています。

b. 文字「S」は「曲がりくねった道」を象徴しています。

c. 「M」と「S」の中央を横切る直線は「福音と共に歩み続けること」を表しています。

d. 文字「O」は、十字架の良き知らせで満たされるべき地球を表しています。

e. 青色は世界中の海を表し、白色は平和と罪からの清めを示しています。

「ヒソプでわたしを清めてください。そうすれば、わたしは清くなります。わたしを洗ってください。そうすれば、わたしは雪よりも白くなります。」（詩篇 51:7）

18. 要するに、MSO は山々や曲がりくねった道が立ちはだかろうとも、着実な歩みで前進し、イエス・キリストの福音を世界に満ちあふれさせている。

トレーニングと教育

イントロダクション

2. MSO は、キリスト教会議・教育・奉仕協会（ACCTS）、ミリタリー・ミニストリーズ・インターナショナル（MMI）、ミリタリー・クリスチャン・フェローシップ（MCF）が主催する訓練に積極的に参加しています。MSO は独自の訓練機会も開発しています。これらの訓練・教育機会はすべて、MSO 訓練教育プログラム（MSOTEPs）によって計画・準備されています。MSO-TEPs の機会の中には、近い将来に実施できるものもあれば、準備に長い期間を要するものもあります。各プログラムは単独で実施することも、2 つ以上のプログラムと組み合わせることもできます。例えば、MSO 英語キャンプはコンピュータープログラムと組み合わせることが可能です。

軍事伝道観察プログラム（MEO）

3. 選抜された軍人クリスチャン指導者および軍牧師は、基地内で毎日実施され、軍および民間教会・組織によって支援されている韓国軍の伝道活動を視察し、体験するよう招待されます。

4. MEO プログラムは、軍隊と民間教会コミュニティ、およびそれらの軍事伝道組織との相互支援関係を見る機会を提供します。韓国軍における 21 世紀ミッション運動を紹介・強調し、詳細な観察・教育プログラムを提供します。

MSO 英語キャンプ

5. MSO は毎年、選定された国（複数可）向けに英語キャンプを主催します。英語キャンプは、ACCTS、MMI、軍事伝道を行う民間教会を含む他の支援組織によって支援される可能性があります。

6. キャンプの期間と頻度は、実施国の支援状況や状況に応じて異なります。

7. 英語キャンプには、コンピューター、テコンドー、医療奉仕プログラムを組み合わせることも可能です。

弟子訓練コース

8. MSO は、開催国の招待により MCF 向けに弟子訓練コースを実施します。

9. 現在、東南アジアおよび中央アジアの一部の MCF で受講が可能です。

在韓外国軍人キリスト教交流会（FMF-K）

10. 在韓外国軍人キリスト教フェローシップ交流プログラム（FMF-K）は、韓国の軍事大学・軍事大学校に学ぶ外国籍の軍人キリスト教徒学生を歓迎するために設計されています。FMF-K は軍人キリスト教指導

者を育成し、帰国後それぞれの国で軍人キリスト教フェローシップ（MCF）を設立または活性化させるための装備と準備を提供します。

11. **「インタラクション・コリア」プログラムは**

ACCTS **プログラムと同様の構成となりますプログラ**

ムに準じたものとなります。ただし、詳細なプログラムは MSO によってさらに開発され、関係する個人および／または組織に通知されます。

軍事倫理・リーダーシップセミナー（MELS）

12. MSO は、このテーマに関心を持つ軍指導者及び政府関係者を対象に、軍事倫理・リーダーシップセミナーを企画します。本セミナーの核心テーマは、キリスト教が軍隊の倫理とリーダーシップに与える影響です。取り上げる可能性のある主題には、キリスト教的リーダーシップ、軍牧師の役割、指揮官と軍牧師の関係、軍事神学、信仰と奉仕、軍隊における異なる宗教などが含まれます。具体的なセミナーについては詳細な計画を提供可能です。

在韓外国人軍人キリスト教徒プログラム（FMF-K 交流）

13. 在韓外国軍人キリスト教徒交流会（FMF-K）は、韓国の軍事大学・軍事大学校で学ぶ外国軍人キリスト教徒学生を歓迎するために設計されています。FMFK は軍人キリスト教指導者を育成し、帰国後それぞれの国で軍人キリスト教徒交流会（MCF）を設立または活性化させるための装備と準備を提供します。

コンピュータープログラム

14. MSO はコンピュータープログラムの主催またはスポンサーシップを要請することがあります。本プログラムは韓国または必要に応じて他国で実施されます。この特定のプログラムは MSO 英語キャンプなど他のプログラムと組み合わせることが可能です。プログラムは MSO 英語キャンプなど他のプログラムと組み合わせることが可能です。

テコンドー（韓国武術）プログラム

15. 軍事武術または治安部隊の指導者は、MSO が主催する韓国におけるテコンドー研修プログラムに招待される可能性があります。MSO はまた、海外在住のテコンドー指導者と連携してこのプログラムを手配することも可能です。

16. MSO は、国際テコンドー競技大会への参加に向け、適切な関係機関と連携することが可能です。

医療支援プログラム

17. MSO は必要な場合に医療支援を手配します。医療支援は受入国の要請に基づき開始されます。MSO は支援の必要性を検討し、利用可能な支援について適切な組織と連携します。

MSO 事務局：

MSO に関する詳細情報、または MSO スタッフへの連絡は、下記 MSO 事務局までお問い合わせください：

3F, Central Military Chapel,

04383 韓国 ソウル特別市 龍山区 漢江大路 40 ギル 46

電話: +82-2-795-6225 または 797-6763

FAX: +82-2-797-6764

メール： mso.amcf@gmail.com

ウェブサイト: www.mso.or.kr

Facebook でもフォローしてください

第 4 章その他の支援組織

（OSOs）

はじめに

1. 以下のキリスト教団体・機関は、福音のパートナーとして、AMCF の指導部および／または一つ以上の PSO のスタッフと関係を築いています。そのため、これらの団体は、PSO や CATT による訓練を補完または強化する支援や訓練を提供することがあります。
2. OSO リストには提供可能な内容の簡単な説明が記載されています。可能であれば、MCF は OSO のウェブページで詳細情報を確認するか、電話またはメールで連絡を取ることができます。
3. OSO がリストに掲載されているのは、AMCF 指導部または PSO スタッフによる積極的な推薦によるものであることを覚えておくことが重要です。 MCF が OSO との関係に不満がある場合、その OSO の奉仕の焦点が軍事以外の分野に移行した可能性があります。この場合は、AMCF 副会長または PSO スタッフに連絡し、情報を AMCF ハンドブック編集チーム（MET）に伝達してもらい、AMCF リファレンスハンドブックから該当 OSO を削除してください。

OSO の説明と連絡先情報

Alpha for Forces – 英国

エリック・マーティン - 開発マネージャー

アルファ・インターナショナルブロンプトン・ロードロンドン、SW7 1JA

直通電話：+44 (0)20 7052 0339

代表：+44 (0)845 644 7533Skype：eric. martin2436 ウェブサイト：www.alpha.orgE メール：Eric.Martin@alpha.org

私たちの使命は、親しみやすく、オープンで、気さくな環境の中で、アルファを通じて人々が人生とキリスト教の信仰を探求する手助けをすることです。

アルファ・フォー・ミリタリー - アメリカ合衆国

クリス・ケアンズ電話: +1 865 300 7087

メール： chriscairns@alphausa.org

私たちは、オープンで友好的な環境の中で、人生とキリスト教信仰を探求するお手伝いをします

軍隊キリスト教連合部 24 号室 シュリヴナム・ハンドレッド、メジャーズ・ロード付近、ウォッチフィールド、SN6 8TZ 英国

+44 (0)1793 783123
office@afcu.org.uk
www.afcu.org.uk

弟子訓練、交わり、祈りを通じて、軍隊に所属するキリスト教徒を支援し、備えさせ、励まします。

バルナバ・インターナショナル

私書箱 11211 ロックフォード, IL 61126 アメ

リカ合衆国,

メール: Barnabas@Barnabas.org

宣教師への奉仕活動を行い、ラテンアメリカおよびカリブ海の MCF（軍人キリスト者）向けに、英語とスペイン語で月刊「励まし」レターを発行しています。ケ

イデンス・インターナショナル

私書箱 1268

Englewood CO 80150 USA Tel +1 303-762-

1400

Email:info@cadence.org Website: www.cadence.org

ケイデンス・インターナショナルは、米国および世界中の軍関係コミュニティにイエス・キリストの福音を伝えることに専心する福音主義の宣教団体です。

Cru Military

私書箱 120124

バージニア州ニューポートニューズ 23612-

0124 電話 +1 757-928-7200 ファックス

+1 757-928-7201

Email:info@crumilitary.org Website: www.crumilitary.org

私たちは、世界中の軍関係者をイエス・キリストと結びつけることに情熱を注ぐ思いやりのあるコミュニティです

エル・ベルボ・パラ・ラティーノ・アメリカーナ（EVELA）

私書箱 1002

オレンジ市、カリフォルニア州

92856 アメリカ合衆国、電話 +1 714-

285-1190

Email:simanjaime@integrity.com Website: www.evela.com

スペイン語の福音カセットと小冊子を配布しています

エバーグリーン

6660 Delmonico Drive Suite 201 Colorado Springs, CO 80919 USA Tel +1 719-536-3256 E メール：FinnT@pcisys.net

中国における軍事宣教のパートナー

グローバル・ミッション・ソサエティ（GMS）

韓国京畿道華城市八田面月門里 110-1 445-914 電話 +82

31-354-5599
Fax +82 31-354-8854

メール：gmshq@gms.or.kr ウェブ

サイト：http://gms.or.kr

私たちは世界中に 1200 人以上の宣教師を擁する世界的な組織です。

国際福音牧師協会（IAEC）1784 Legare

Lane バージニアビーチ、バージニア州 23464 電

話 +1 719-322-3722

Email: pwrigley@juno.comWebsite: www.iaechap.com*We promote the*

development of
すべての国の軍隊における福音派の軍牧師の育成を推進します。

韓国軍キリスト教フェローシップ（KMCF）

3F, Central Military Chapel,

04383 韓国 ソウル特別市 龍山区 漢江大路 40 ギル 46 電話

+82 2-795-3917, 3363 FAX +82 2-792-7655 メール:

kmcf2020@daum.net **ウェブサイト：**

http://cafe.daum.net/KOREAMCFKMCF ***のモットーは「神のために、国のために！」です。キリスト教徒兵士の信仰活動を支援し、全軍部隊に*** *MCF* ***を組織し、*** *MCF* ***会員の交わり活動を通じて全兵士への伝道を推進することを目的としています。***

韓国退役軍人キリスト教友愛会（KVMCF） 韓国キリスト教協会ビル 1207 **号** 03129 **韓国ソウル特別市鐘路区金商谷路** 30

電話 +82 2-708-4474〜5

Fax +82 2-708-4476 メール: kvmcf@hanmail.net

ウェブサイト:

http://cafe.daum.net/kvmcf

KVMCF は KMCF の国家救済祈祷大会を毎年支援・協力しています。アジア地域会議や MSO との交流に参加・支援

・協力する主要な国内協力団体です。

韓国軍福音協会（MEAK）

MEAK オフィス、101 号室、70、昌慶宮路 16 ギル、鐘路区、ソウル特別市、大韓民国 03128

電話 +82 2-744-2661〜4

ファックス +82 2-742-7954

Email:meak2020@hanmail.net Web site:

www.v2020.or.kr *MEAK は 10 の海外支部と 16 の国内支部で構成されています。*21 世紀宣教運動を通じて、*MEAK は軍隊と韓国におけるキリスト教を確立しました。民間と軍隊の教会、そして軍隊に派遣された宣教師を結びつけることで、牧師への支援を提供する主要な協力組織です。*

ミッション・モビライゼーション・インターナショナル（MMI）

私書箱 77165 号

コロラドスプリングス市、コロラド州 80970-7165 アメリカ合衆国、電話 +1 719-761-6257

Email: randygreen527@aol.com
MissionMI@hotmail.com

警察・軍隊向け戦術訓練を提供し、福音伝道を展開しています。

海軍・陸軍・空軍聖書協会（NM&AFBS）

ユニット 24、シュリヴナム・ハンドレッド・ビジネスパーク

マナー・ロード付近、ウォッチフィールド SN6 8TZ イギリス

+44 (0)7793 422599

enquiries@nmbs.org.uk

www.nmbs.org.uk

私たちは多くの国の軍隊に聖書、新約聖書、小冊子、リーフレットを配布しています。

ナビゲーターズ・ミリタリー・ミニストリー

郵便番号: 80934-6000

コロラドスプリングス、CO 80934-6000 アメリカ住所：3820 N30thSt.

コロラドスプリングス、CO 80904 アメリカ合衆国

電話 +1 719-598-1212
Eメール：ウェブサイトの「お問い合わせ」をご利用ください www.navigators.org/us/contactus/email ウェブサイト：http://www.navigators.org *ナビゲーターズ® は、1933 年に設立された国際的な、宗派を超えたキリスト教のミニストリーです。*

1933 年に設立されました。ナビゲーターとは、イエス・キリストを愛し、人生という航海の中で他の人々がキリストを知り、キリストにあって成長するのを助けたいと願う人々のことです。

オリーブ・ブランチ・インターナショナル（OBI）

私書箱 748 号

Norfolk, VA 23501–0748 USA Tel +1 757-518-8749

Email: contact@olivebranch-intl.com Website: www.olivebranchintl.org *国際的な軍関係コミュニティへの人道的奉仕オペレーション・レヴェイユ*

私書箱 3488

モニュメント、コロラド州 80132 アメリカ合衆国 電話 +1 303 557 6880

E メール：メールフォームへ www.oprev.org/contacts

メールフォームをご利用の上送信してください。

ウェブサイト：www.oprev.org

異文化*宣教のための奉仕者育成と装備*

ポイントマン・リーダーシップ・インスティテュート（PLI）

64144 ヒューム・レイク・ロードヒューム, CA 93628, アメリカ合衆国電話: +1 559 335-2718 ファックス: +1 559 335-2409

Email:webomquiry@pliglobal.com Website: http://pliglobal.com

警察、軍隊、政府などの指導者に福音を伝える、原則に基づくリーダーシップおよびその他のセミナー。

プリセプト・ミニストリーズ・インターナショナル

7324 Noah Reid Road 私書箱 182218

チャタヌーガ、テネシー州 37422, アメリカ合衆国メール:cpopovich@precept.org ウェブサイト: http://www.precept.org

プレセプトの誘導的聖書研究法は、セミナー、ワークショップ、聖書研究教材を通じて人々を神の言葉に根づかせ、誰もが効果的に自ら神の言葉を学び知ることを可能にします。

PMI は非教派であり、世界 180 カ国近く、70 言語近くで聖書研究教材を提供し、世界中に事務所を構えています。これにより、弟子を作る弟子を作ることを支援するために、私たちは共に歩むことができます。

World Military Mission Organization (WMMO) #B01 Inovil, 27, Gungnae-ro 40beon-gil, Bundang-gu,

韓国 13550 京畿道 城南市 盆唐区 軍内路 40 番街

Email: jmj423@hanmail.net

全世界的な軍事伝道へのビジョンを持つ軍事ミッション組織

世界中の制服を着た男女は、各国で重要な役割を担い、その奉仕は大宣教命令の実践そのものです。AMCF リファレンスハンドブックを活用し、神の導きに従って歩むことが求められます。職場で聖霊に導かれ、高い勤勉さと警戒心を持って行動することが基準とされます。参照資料が容易にアクセスできる環境では、説明責任が高く評価されるため、各自が意識的に行動することが望まれます。聖書（ヘブライ 13:21）にも示されるように、神は私たちを十分に備え、御心に適うことを行わせてくださいます。

エッセル・C・ソリアーノ退役少将

出版履歴と著作権表示

本ハンドブックは 1994 年 4 月に ACCTS が初版を発行し、以降電子版や改訂・更新を重ねてきました。主な改訂は 2001 年、2002 年、2004 年、2015 年、2018 年、2019 年、2020 年、2021 年、2022 年、2023 年、2024 年、2025 年に実施されています。著作権は 2015 年に軍事キリスト教フェローシップ協会（AMCF）が保有し、

ACCTS、MMI、MSO が編集チームとして協力しました。各セクションは AMCF を原出版者として明記の上で複製可能です。翻訳には AMCF 編集チームの調整と承認が必要であり、内容の関連性と目的達成のために毎年 10 月 1 日までに必要な変更が公表されます。

聖書引用は新国際版（NIV®）を主に使用しており、Biblica, Inc.の著作権のもとゾンダーヴァンの許可を得ています。

ハンドブックに関する連絡先やウェブサイト情報も記載されています。

目次